

平成23年度  
津市まちづくりレポート



平成23年6月



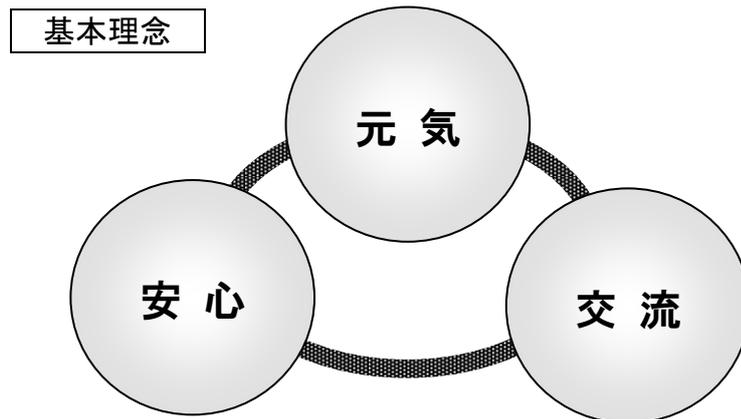
津市



はじめに .....	1
各プログラムの取組状況	
<b>1 まちづくり戦略プログラム</b>	
① 未来を拓く都市空間形成プログラム .....	3
② 自然の恵みの価値創造プログラム .....	12
③ 海に開くまちづくりプログラム .....	21
④ 持続可能な地域形成プログラム .....	25
⑤ 歴史と文化の拠点形成プログラム .....	29
⑥ 健康とスポーツの振興プログラム .....	36
<b>2 元気づくりプログラム</b>	
① 住みやすさ向上プログラム .....	39
② 元気な人づくりプログラム .....	42
③ 若者定住プログラム .....	46
④ 交流による活力創造プログラム .....	49
⑤ 津らしさ実感プログラム .....	57
<b>地域かがやきプログラム</b>	
① 東部エリア～キラリと輝く人づくり・まちづくり～ .....	63
② 北部エリア～都市や自然と共存するふれあいの里づくり～ .....	77
③ 中部エリア～“みのり”と“ぬくもり”の郷（さと）づくり～ ..	85
④ 南部エリア～健康で暮らせる自然と歴史の地域づくり～ .....	91

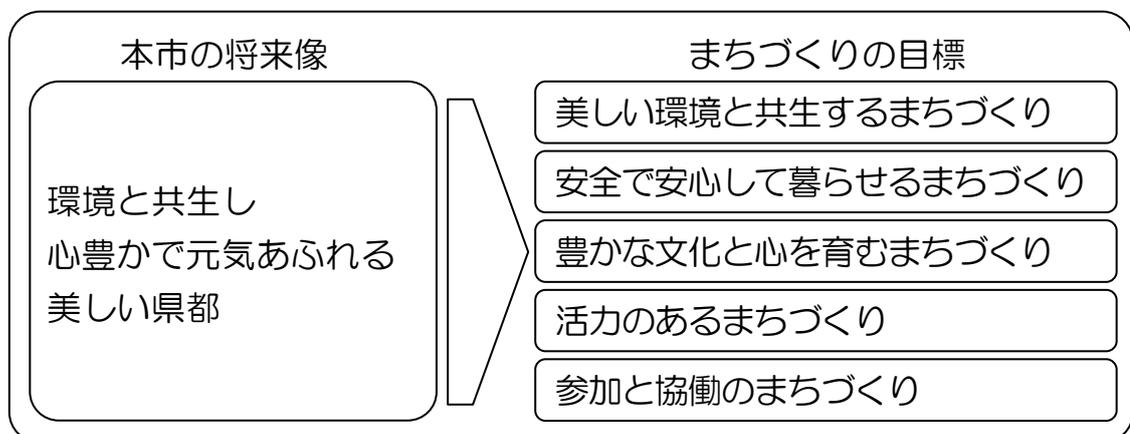
## はじめに

津市総合計画は、平成20年3月に策定されました。本市の総合計画においては、「住みやすさ」と「人と人とのつながり」を大切にしつつ、「安心」、「交流」、「元気」の3つの基本理念のもと、将来像を「環境と共生し、心豊かで元気あふれる美しい県都」と定め、まちづくりを進めています。

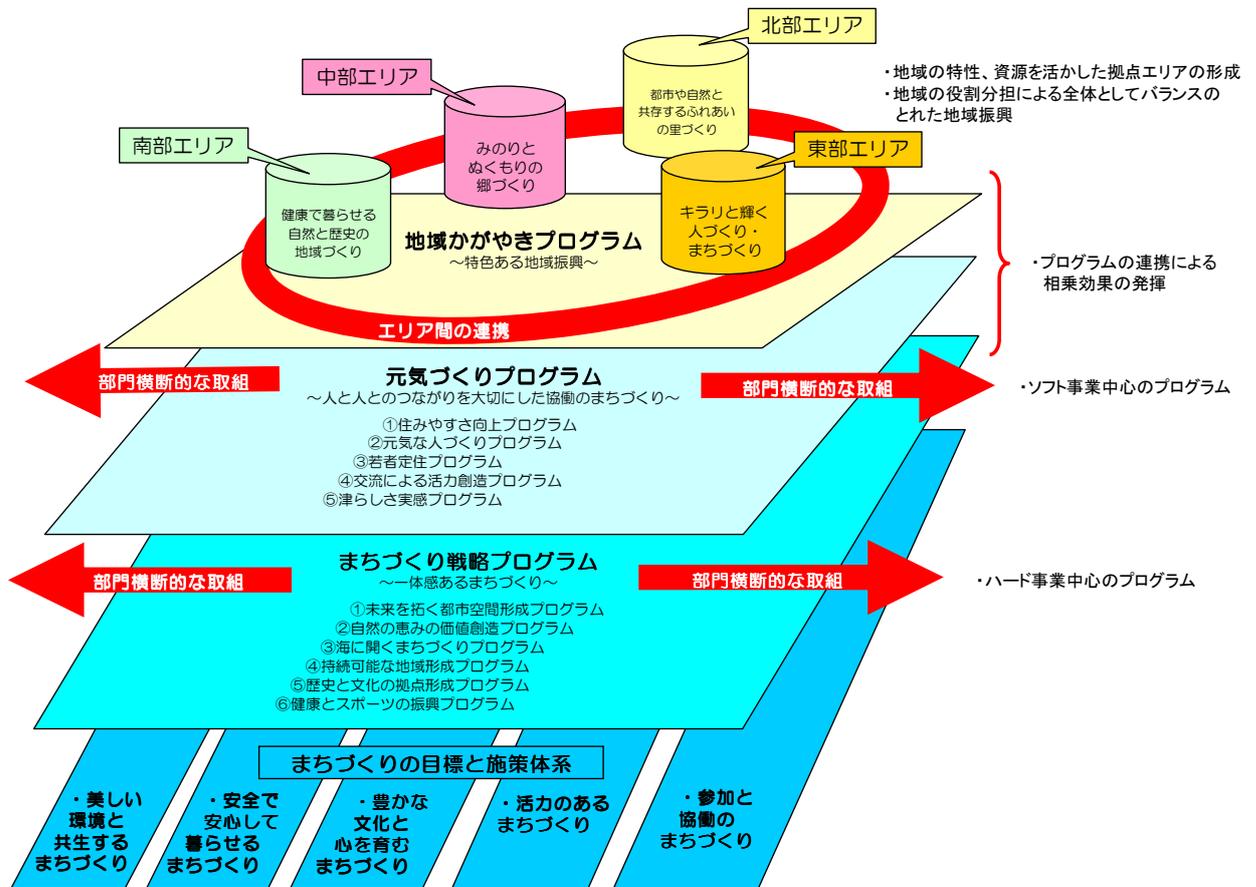


### まちづくりの目標と重点プログラムの編成

総合計画では、5つのまちづくりの目標（美しい環境と共生するまちづくり、安全で安心して暮らせるまちづくり、豊かな文化と心を育むまちづくり、活力のあるまちづくり、参加と協働のまちづくり）を掲げるとともに、総合計画に基づくまちづくりを戦略的かつ重点的に推進するために、3つの重点プログラム（まちづくり戦略プログラム、元気づくりプログラム、地域かがやきプログラム）を編成しています。



## <重点プログラムの体系>



## 重点プログラムとは

国、地方を通じた厳しい財政状況のもとで、総合計画の将来像を実現していくためには、事業そのものを目的化せず、事業の目的を市民生活の様々な局面からとらえ、まちづくりとして戦略的かつ重点的に推進していくことが必要です。

重点プログラムは、まちづくりの施策体系に基づく事業を効果的に組み合わせ、その一体的、総合的な推進に取り組むためのプログラムです。

## まちづくりレポートとは

市では、各重点プログラムに位置付けられた施策の内容ごとに、進行管理と評価を行う「政策評価」を行っています。この政策評価を基に、事業の取組実績や今後の取組を分かりやすく公表するため、「まちづくりレポート」をとりまとめました。

「平成23年度まちづくりレポート」は、総合計画前期基本計画の重点プログラムにおける各目標に対して、平成22年度のそれぞれの事業における「取組実績」、「現状における課題」及び「今後の取組」の3つの項目により構成されています。

## 1 まちづくり戦略プログラム

### ①未来を拓く都市空間形成プログラム

#### 1 新都心軸の形成

##### (1) 都市核（津城跡周辺地区の整備と活用）の整備

（スポーツ文化振興部、商工観光部、教育委員会）

###### 前期基本計画における目標

- ・多様な交流の拠点として、都市核の中心を担う津城跡（お城公園）及びその周辺地区については、藤堂高虎公入府400年記念に関連する事業を実施するとともに、高虎公にゆかりのある自治体との歴史的つながりを大切にした交流を進めるなど、これを契機とした藤堂高虎公を活用したまちづくりを進め、魅力的な都市空間の創造を図ります。
- ・津城の城跡としての価値を明確にし、次世代に伝えていくため、保存管理計画の策定のもと、歴史的価値の保存・活用を図ります。
- ・市民の機運の高まりを踏まえつつ、津城跡の復元について、調査研究に取り組みます。
- ・中心市街地の空き店舗や空き地等を活用し、大学生や短大生の活動スペースを設けるなど、若い力を活かしたまちづくりに取り組むとともに、市民が集まり、賑わいが創出できるよう、歴史・文化的機能など公共公益施設の誘導を図ります。
- ・国道23号等において歩道のバリアフリー化や憩いの場等の道路環境の整備を促進するとともに、あんしん歩行エリアの形成に向けた取組を支援します。

##### (2) 津なぎさまちの整備

（都市計画部）

###### 前期基本計画における目標

- ・津なぎさまち及びその周辺については、県都の玄関口として、新たな交流と活力を創造する賑わいの創出を図るため、みなとまちづくりの推進に努めます。

##### (3) 新たな連携と交流を創出する新産業交流拠点の形成への取組

（都市計画部、商工観光部）

###### 前期基本計画における目標

- ・近畿自動車道伊勢線津インターチェンジ周辺地区においては、県都としての活性化を牽引し、本市の求心力をさらに高める観点から、中心市街地の活性化に寄与し、津なぎさまちを中心とするみなとまちづくりと連動した新都心軸の形成を図るため、本市の玄関口として圏域内外との交流を展開する新たな産業交流拠点機能の形成をめざします。

## 平成22年度の取組実績

- ・ 市民懇話会等を開催するなど、市民参加を図りながら、新都心軸連携計画等の策定に向けた取組を行いました。
- ・ 藤堂高虎公の業績や津城を広く知っていただくために、市民ボランティアガイドの協力を得て「藤堂高虎公情報センター『シロモチくんの館』」を夏休み期間中や津まつり会場内に開設しました。
- ・ 緊急雇用創出事業を活用し、マスコットキャラクター「シロモチくん」による藤堂高虎公PR活動や、パンフレット作成などを行い、さらなる市民の藤堂高虎公、津城への関心を高め、津城復元に向けた気運を高めることに努めました。
- ・ キャラクターPR事業として市内外のご当地キャラクターを招聘し、大門においてイベントを実施し、子ども向けのトレーディングカードや、津をイメージしたポスターの作製など、津市の情報発信に努め、市民への藤堂高虎公、津城への関心を高めることができました。
- ・ 中心市街地の活性化を図るため、商店街振興組合との意見交換を行うとともに、市民アンケートの実施や空き店舗・空き地の現地調査等を行い、商店街の振興に向けた基本コンセプトの策定等を内容とする中心市街地テナントサポート事業に取り組みました。
- ・ 中心市街地活性化チャレンジショップ事業として、(株)まちづくり津夢時風等との連携のもと、オーデン大門ビルを活用した。大学生主体のカフェの運営のほか、カフェ開業セミナー、大学1年生の交流会の開催、津市に関する写真の展示など、様々な活動の拠点として活用することで賑わいの創出を図るための取組を行いました。また、丸之内の空き店舗を活用し、小学生による手作り品の販売を実施しました。

## 現状における課題

- ・ 新都心軸の各拠点の整備については、土地利用上の問題や環境問題等の整理・検討の必要があります。
- ・ 津なぎさまちの整備については、国が津波対策における沿岸部の土地利用に係る規制等の検討を進めていることなど、土地利用上の課題の整理・検討の必要があります。
- ・ 平成23年度は津城修築400年の節目の年であることから、津城跡への関心を高めるチャンスとし、さらなる啓発を図る事業を展開する必要があります。
- ・ 中心市街地テナントサポート事業により提案された取組については、具体化に向けた取組方法、役割分担及び実施主体などの整理を行い、計画的に取り組むことが必要となります。
- ・ 中心市街地活性化チャレンジショップ事業については、オーデン大門ビルを拠点とした取組が商店街全体の賑わい創出につながるよう取り組むことが必要となります。

## 1 まちづくり戦略プログラム - ①未来を拓く都市空間形成プログラム

## 今後の取組

- ・ 新都心軸の形成に向けて、関係機関との調整や市民等の意見を伺いながら、新都心軸連携計画等の策定を行います。計画策定後は、同計画に基づき、新都心軸の具体化に取り組んでいきます。
- ・ 平成23年度は、藤堂高虎公が津城を修築して400年の節目の年にあたることから、記念講演会やPR活動を実施し、津市の歴史文化の再認識、全国の藤堂高虎公ゆかりの地との交流、全国に向けた情報発信につなげていきます。
- ・ 中心市街地テナントサポート事業により提案された取組について、事業実施に向けた課題等の整理を進め、具体化に向けた取組を進めます。
- ・ 中心市街地活性化チャレンジショップ事業についてはオーデン大門ビルを拠点として、さらなる賑わいの創出が図られるよう、事業の実施内容や方法等について、(株)まちづくり津夢時風をはじめ、NPOや商店街等との協議及び連携による取組を進めます。

## 2 副都市核の整備

### (1) 久居駅東側周辺地区の整備

(都市計画部、政策財務部)

#### 前期基本計画における目標

- ・ 久居駅東側周辺地区については、本市南部の玄関口としての駅前の利便性を活かし、民間活力の導入も視野に入れつつ、賑わい性を高めるための副次的な都市機能の整備を進めます。

#### 平成22年度の取組実績

- ・ 平成22年5月に地元での説明会を開催したほか、7～8月にワークショップを開催して市民の意見集約に努めました。

#### 現状における課題

- ・ 地域住民から、民間事業者活用の撤回をはじめとしたワークショップからの提言内容を最大限尊重した事業の実施を求める要望があり、要望に対する対応の検討が必要です。

#### 今後の取組

- ・ 地域からの要望等も踏まえ、事業内容など慎重な検討を行いながら、取り組んでいきます。

### 3 産業拠点を中心とした企業立地の促進と産業の高度化

(商工観光部)

#### 前期基本計画における目標

- ・あのつピアにおいては、三重県との連携及び県内における広域連携を図りつつ、本市の産業振興の拠点として産業振興センターを設置します。本センターについては、産学官連携や産産連携のために研究者が集い、新たなイノベーションを進める場としていくとともに、地域資源を活用した新商品開発など、新たな事業展開を進める企業に対するマーケティング等の支援を行うことによって、研究開発型産業基盤の整備と同時に市内産業全体の振興を図っていきます。
- ・企業立地の促進にあたっては、「津地域産業活性化基本計画」に指定する業種を誘致対象の中心として、本市の優位性のPR、他地域との差別化、きめ細かい立地サポートなど戦略的に取り組みます。
- ・中勢北部サイエンスシティ、ニューファクトリーひさいを、本市における産業を牽引する拠点と位置づけ、広域的な産業連携を図りつつ、企業立地をさらに促進するため、中勢北部サイエンスシティ第1期事業区域の造成や関連公共施設の整備、ニューファクトリーひさいの区画分割整備によって、企業立地を促進します。

#### 平成22年度の取組実績

- ・中勢北部サイエンスシティ及びニューファクトリーひさい工業団地への企業誘致のため、企業訪問をはじめ、各種PR、情報発信及び収集などに積極的に取り組み、首都圏において、また関西圏の大阪、京都方面において誘致活動を強化し、平成22年度は2社の誘致に成功しました。
- ・研究開発型産業の育成を図るため、中小企業が取り組む新技術・新製品の開発事業（1件）及び人材育成事業（4件）に対し補助金を交付しました。
- ・企業訪問等により情報収集・提供を図るとともに、産学・産産連携に向けた勉強会の開催、コーディネーター等の専門家による起業家・企業・事業者の育成支援、地域資源や知的財産の活用を推進しました。
- ・地域資源活用については、市内事業者の基礎調査を実施し、魅力ある商品等の発掘・開発について検討しました。
- ・海外企業連携推進事業として、県、四日市市、ジェトロ等とともに、フランスのメカトロ産業クラスターとの調整を進め、平成23年1月にフランスから関係企業等を招聘し、セミナーやビジネス交流会等の開催を通じて、両地域の産業交流に向けたネットワークづくりに有意義な成果を得ることができました。

## 1 まちづくり戦略プログラム - ①未来を拓く都市空間形成プログラム

## 現状における課題

- ・ 産学・産産連携や、専門家による育成支援を展開していくためには、対象となる事業の継続性・発展性を考慮する必要があります。
- ・ 欧州を中心に海外企業との技術連携や販路開拓に関心を持つ市内企業をさらに発掘し、新たなビジネスマッチングの可能性を開拓していく必要があります。

## 今後の取組

- ・ 中勢北部サイエンスシティ及びニューファクトリーひさい工業団地への企業誘致の促進のため、積極的な誘致活動を展開していきます。特に中勢北部サイエンスシティについては、本年4月より国道23号中勢バイパス沿い産業区域の新規分譲を開始したため、製造業を中心とした誘致活動に取り組んでいきます。
- ・ 引き続き、中小企業の取り組む研究開発や人材育成への助成、企業訪問等による情報収集・提供、産産・産学連携に向けた勉強会の開催を進めるとともに、専門家による起業家・企業・事業者の育成支援などを重要性・効果性を踏まえて実施していきます。
- ・ 地域資源活用については、基礎調査の結果を踏まえ、市外・県外、さらには全国展開できる商品の発掘・開発を進めるとともに、展示会での販路開拓や市場調査等を実施します。
- ・ 県やジェトロなど関係機関と協力して、海外企業連携推進事業の取組の一層の周知を行い、フランスとの継続的な情報交換やビジネス交流を通じて、市内企業の海外展開や新たなビジネスの創出を図っていきます。

## 4 広域交通ネットワークの形成

### (1) 環状放射型道路交通網の整備

(建設部)

#### 前期基本計画における目標

- ・近畿自動車道伊勢線、中勢バイパス、国道23号、国道163号、国道165号、国道368号、主要県道路線は、市の骨格を形成する広域幹線道路として、関係機関に要請して整備の促進を図り、圏域内外から人や物が集中、分散させていくための円滑かつ利便性の高い広域連携軸を形成します。
- ・広域連携軸を補完しつつ、各地域間の有機的な連携、交流へと結びつけていく域内連携軸として整備の促進を図り、人や物を移動させるための交通機能の強化はもとより、都市環境機能、都市防災機能、市街地形成機能などの多様な機能を有する道路として整備推進を図ります。
- ・都市部及びその周辺に集中する交通を適正に配分し、都市部への不要な通過交通の抑制による交通の円滑化と生活道路の安全性を確保するため、都市環状道路などの形成を図ります。

#### 平成22年度の取組実績

- ・中勢バイパスなど、市内の骨格を形成する主要幹線道路の整備促進を、国及び県に対し要望、協議を行うとともに、必要な地元調整や関連する市道整備等について調整を進めました。  
中勢バイパスについては、国道165号以南の平成23年度開通や津IC以南の平成26年度開通に向け、地元調整などを行い、国とともに事業促進に努めました。  
一志美杉線（矢頭峠トンネル）については、事業進捗を図るため、用地買収に伴う地元交渉・調整を行いました。  
また、その他の骨格となる幹線道路についても、県に対して、着実な事業進捗が図られるよう要望を行うとともに、地元調整など市の責任分担を果たしてきました。
- ・道路新設改良事業については、広明町河辺町線の工事が完了し供用開始とともに、他の路線においても計画どおり事業の推進が図れました。
- ・街路改良事業（上浜元町線の津港跡部線から国道163号の区間）においては、地権者の理解のもと、一部の事務手続きを残して用地買収が完了し、平成23年度の完成に向け事業が進められました。
- ・都市再生整備計画事業浜田長岡線一身田工区については、一部道路用地の追加買収を行い、平成23年度に工事を完了できる見込みとなりました。

#### 現状における課題

- ・国における道路整備予算の大幅な減少が予想され、要望の優先度、さらなる内容精査等がもとめられます。

## 1 まちづくり戦略プログラム - ①未来を拓く都市空間形成プログラム

## 今後の取組

- ・ 望ましい道路交通ネットワークの形成を図るため、一定の優先度判断を持ちながら引き続き、中勢バイパス、国道163号片田バイパス、主要県管理道路の整備促進などの要望や地元調整を行うなど、今後とも事業促進に努めていきます。
- ・ 道路新設改良事業については、国庫補助金等の財源を最大限に活用し事業完了路線（元町孝行井戸線）の年度内供用をめざすとともに、関連他事業の進捗に合わせ新規路線の着手を行います。
- ・ 都市再生整備計画事業については、計画どおり事業の進捗を図るため、一身田寺内町地区においては、環濠計画の見直しを行うとともに、カラー舗装、側溝整備事業を展開します。また、津駅周辺地区においては、津駅東西連絡路改良（エレベーター設置）事業、浜田長岡線（一身田上津部田工区）に着手し、津駅前北部土地区画整理事業と併せて津駅周辺の整備促進を図ります。
- ・ 上浜元町線（上浜元町線の津港跡部線から国道163号の区間）については、平成23年度の完成をめざし、事業を推進します。
- ・ すべての市民が都市的なサービスを楽しむよう、環状放射型道路交通網の整備に引き続き取り組んでいきます。

## (2) 地域交通体系の計画的な構築

(都市計画部)

### 前期基本計画における目標

- ・ 地域公共交通の連携等に係る協議会の設置を通じ、誰もが移動しやすい公共交通網の形成を図るため、公共交通等のアクセス利便性と回遊性の向上、地域交通の改善に取り組むとともに、地域の実情を反映し、長期的な視野に立った地域交通の未来像と望ましいあり方に関する総合的な対策について、関係者による協議と市民との協働により検討を進め総合的な交通ネットワークの形成をめざします。

### 平成22年度の取組実績

- ・ 平成22年度は、コミュニティバス等の全市的な再編及び実証運行を行いました。また、実証運行中は、乗降調査や利用者アンケート調査の結果分析や地域懇談会等を通して、地域の特性やニーズを把握し、平成22年7月及び10月に芸濃・美里・安濃・美杉地域でコミュニティバス運行の一部変更を行い、改善を図るなど、地域の実情に応じた運行の見直しを随時行いました。
- ・ 交通不便地への対応としては、地域住民と協働した地域主体型乗合ワゴンの運行について、平成23年度の実証運行に向けての足がかりをつくることができました。
- ・ コミュニティバス運行に関する啓発グッズやチラシ等を作成し、津まつり等で啓発を行うことにより利用促進に努めました。

### 現状における課題

- ・ 高齢化した団地や地域等、いわゆる交通不便地への対応が求められているほか、利用促進策をはじめ収支率の改善や運営体制の見直しなど、持続可能なコミュニティ交通運営への移行が必要となります。
- ・ 市域全体を展望した効率的で利便性の高い公共交通ネットワークを構築していく必要があります。

### 今後の取組

- ・ 津市コミュニティバス運行について、PDCAによる評価・改善を行い、より利便性の高い運行を図るとともに、今後も継続して公共交通を支えるための利用促進に努めます。
- ・ 市内の交通不便地への対応として住民主導型の運行を行うための枠組みづくりを進めていきます。

## ②自然の恵みの価値創造プログラム

### 1 豊かな自然の恵みを次世代に引き継ぐための取組

#### (1) 農山村活性化プロジェクトの推進

(農林水産部)

##### 前期基本計画における目標

- ・ 農林業を基盤とする農山村活性化を図るため、森林セラピー基地と連携し、「つ産材」の利用、獣害対策の促進等に取り組むとともに、関係団体、企業、学校等との協働のもと、耕作放棄地等を利用した賑わいの場づくりに取り組むなど、農林業の付加価値を高め、都市と農山村の交流を促進し、活性化するための総合的な取組を進めます。また、農業基盤の整備を推進するなど、農地と集落が一体となった農村集落の維持継承に努めます。

##### 平成22年度の取組実績

- ・ 津産津消推進事業については、先進事例調査を踏まえ、津産津消推進懇談会を3回開催し、「津産津消推進計画」の策定に向けた検討を行いました。
- ・ 地域農業基盤創生事業については、新たなニーズの創出やビジネス化に向けた取組を行った認定農業者3名を支援するとともに、耕作放棄地となっている荒地を農地として復元し、適正な管理・営農を行った認定農業者1名に対し支援を行いました。
- ・ 有害鳥獣対策事業については、個体数調整における3月末での捕獲数は、シカが2,536頭（前年比約1.6倍）、サルが131頭（前年比約2.1倍）と大きな成果が上がっていると同時に、防護柵についても、概ね要望どおりの設置ができました。
- ・ 農林業就業促進対策事業については5事業者、6名の支援を実施しました。
- ・ 土地改良事業の工事については、市単独事業について予定工事は完成しました。また、県営事業については、県において、事業費が確保されたことから事業の促進を図ることができました。

##### 現状における課題

- ・ 津産津消推進事業については、津産津消推進計画の策定と、計画の実現に向けた具体的な取組が課題となります。
- ・ 地域農業基盤創生事業については、今後も、新たな農業ビジネスの創出や要活用農地の復元等を行い、農産物の高付加価値化や耕作放棄地の解消に努めることが必要となります。
- ・ 有害鳥獣対策事業については、個体数調整における捕獲後の処理方法と地域ぐるみによる獣害対策の取組集落等の拡大が課題となります。
- ・ 土地改良事業については、工事の要望箇所が多くあることから、より効果的な事業箇所の選択を行う必要があります。

## 今後の取組

---

- ・ 平成23年3月1日に施行された農林漁業者等による事業の多角化、高度化等を目的とする「六次産業化法」に基づく総合化事業計画も視野に入れ、本市の計画策定を推進していきます。
- ・ 津産津消推進事業、地域農業基盤創生事業、有害鳥獣対策事業、農林業就業促進対策事業については、課題を踏まえた事業の充実と効果的な実施に取り組んでいきます。
- ・ 引き続き土地改良事業において、事業要望箇所の早期工事完了に取り組んでいきます。

## (2) バイオマス等の活用

(農林水産部、環境部ほか)

### 前期基本計画における目標

- ・美杉地域をはじめとする中山間地域においては、木質系バイオマスの活用など、新たな森林資源活用システムの研究等、具体化に向けた取り組みを進め、バイオマス資源等を活用した地域循環型産業の新たな拠点の形成をめざします。

### 平成22年度の実績

- ・ バイオマス等の活用に関する取組については、林道改修工事等から発生する伐採木について、ウッドピア木質バイオマス利用協組（松阪市）に搬送し、チップ化し、化石燃料の代替エネルギーとしての活用を図りました。チップ材、末梢材、木材市場残木等の木質バイオマス活用を継続的に実施できました。

### 現状における課題

- ・ 林地残材を山に残さないシステムづくりに当たっては、燃焼系材としての提供が可能か否かなどの再検証を行うことが必要となります。本格的な活用については、林業関係団体と安定供給に向けた協議が必要となります。

### 今後の取組

- ・ 今後は、林地残材の木質バイオマス活用を推進しつつ、県内外のチップ製造企業との積極的な連携を図っていきます。

## 2 森林セラピー基地の整備

(農林水産部、美杉総合支所ほか)

### 前期基本計画における目標

- ・豊かな森林の恵みを活かし、森林セラピー基地（セラピーロードと宿泊施設）を活用したヘルスツーリズムを積極的に展開します。

### 平成22年度の実績

- ・平成21年度に設置した森林セラピー基地在り方懇話会を、地域主体による事業運営ができるよう、平成22年9月に森林セラピー基地運営協議会へ移行しました。
- ・森林セラピーロードについては、案内看板や総合案内所へのPRモニターの設置等、ロード施設の整備を実施しました。
- ・森林セラピーロードへの集客の増大を図るため、県内はもとより東京、大阪及び奈良（平城遷都1300年祭関係イベント）においてPR等啓発事業を実施しました。

### 現状における課題

- ・運営協議会に対しスムーズに事業の運営を移行させ、地域住民の意向を十分踏まえたセラピーロードの運営方法を模索して行くとともに、セラピーロードの拠点となる施設の活用を促進していく必要があります。
- ・セラピーロードのさらなる集客の増大及び活用促進のため、企業や医療・福祉施設へのPR事業の展開が必要となります。

### 今後の取組

- ・森林セラピーロードについては、住民主体の運営協議会の設置により、今後は、行政との協働による地域づくり事業として、一層の定着と発展をめざしながら、セラピー基地運営の展開、セラピーロード及び拠点施設の整備、PR事業の展開を実施していきます。

### 3 山から海まで河川流域の一体的な取組

#### (1) 山と川と海のネットワークづくり

(環境部、農林水産部)

##### 前期基本計画における目標

- ・ 布引山地から伊勢湾まで、山・川・海の各地域の市民・事業者の交流会や学習会の開催などを通じて、相互のコミュニケーションを図り、それぞれの地域の課題解決に向けたネットワークづくりを行います。
- ・ 森林などにおいては、イベントの開催などを通じて、市民の活動を活発化し、山・川・海を活用した交流を促進します。

##### 平成22年度の取組実績

- ・ 山と川と海のネットワークづくりの中心となる新雲出川物語推進委員会と協働し、美杉地域における山・川・海ネットワークの森交流会や、香良洲海岸清掃活動&地引網体験、山・川・海ネットワークの森下草刈り等の事業を実施しました。また、新雲出川物語推進委員会においては、つ・環境フェアへの参加や、平成22年10月に名古屋市において開催されたCOP10において、併催されていた生物多様性交流フェアへ出展するなど、ネットワークづくりを推進しました。さらに、6月の環境月間に「ホタル観察会」、「記念植樹」を継続して実施することができました。

##### 現状における課題

- ・ 構築したネットワークを活用し、地域の課題解決を図る体制づくりを推進する必要があります。

##### 今後の取組

- ・ 引き続き、新雲出川物語推進委員会と協働し市民・事業者の交流会や学習会を開催し、相互のコミュニケーションを図り、地域間の相互理解を深め、地域を越えた市民・事業者のネットワークづくりを推進していきます。

## (2) 生活排水対策の総合的な推進

(下水道部、農林水産部、環境部)

### 前期基本計画における目標

- ・ 公共用水域の水質保全や自然環境の保全を図るため、「生活排水処理施設整備計画」に基づき、効率的な下水道事業の推進に取り組みます。
- ・ 中勢沿岸流域下水道の志登茂川処理区、雲出川左岸処理区、松阪処理区における幹線及び処理場整備を進めるとともに、志登茂川処理区の早期供用開始を促進します。
- ・ 公共用水域の水質保全に寄与するため、農業集落排水の供用率の向上や浄化槽の設置を促進します。

### 平成22年度の取組実績

- ・ 生活排水処理施設整備計画策定事業については、その見直し案を市議会全員協議会（平成22年8月10日）で説明を行った後、津市自治会連合会、同連合会各支部自治会長会議等において説明を行うとともに、パブリックコメント（平成22年10月1日から11月1日まで）を実施するなど、市民の意見等の把握に努め、見直し案に係る地元説明をほぼ終了することができました。
- ・ 浄化槽事業については、浄化槽設置整備事業補助金交付要綱に基づき、5人槽231基、7人槽151基、10人槽11基に対し補助金を交付し、また、団地の集中浄化槽の修繕に関し、共同汚水処理施設修繕工事補助金の交付申請のあった9団地に対し補助金を交付しました。
- ・ 農業集落排水事業において排水設備を整備した区域における汚水の処理について、生活排水設備の未接続世帯に対し、接続を行うPRを行った結果、区域内対象戸数は減少傾向にあるものの、供用率は91.93%（3,110戸／3,383戸）と向上が図られました。
- ・ 公共下水道事業については、平成22年度の目標である下水道普及率43.0%を達成するなど、着実に整備することができました。また、下水道整備については、国庫補助・交付金の見直しに伴い、補正予算での対応を行い十分な財源を確保することで事業の推進を図ることとしました。

### 現状における課題

- ・ 生活排水処理施設整備計画策定事業については、さらに住民の意向把握に努め、平成23年度中に策定する必要があります。
- ・ 生活排水処理施設整備計画の見直しについては、浄化槽で整備することとなる区域の団地の集中浄化槽の維持管理の在り方について検討していく必要があります。
- ・ 浄化槽事業については、浄化槽県費補助制度の見直し及び生活排水処理施設整備計画の見直しに伴い、本市の補助制度をどのように設定していくかが課題となります。

## 1 まちづくり戦略プログラム - ②自然の恵みの価値創造プログラム

- ・ 農業集落排水事業においては未接続世帯への訪問を重ね、接続を促す必要があります。
- ・ 下水道整備に当たっては、支障となる占有物件の移設協議の円滑な実施と、施行予定の地域住民の理解が大きな課題となります。  
また、国における地域再生基盤強化交付金の見直しに伴う財源不足への対応等を踏まえ、より効率的な下水道整備を進める必要があります。一方で、老朽化施設等の改善をめざす「長寿命化計画」の策定に着手しており、今後は、当該計画を踏まえた計画的な整備を進めていく必要があります。

#### 今後の取組

---

- ・ 生活排水処理施設整備計画策定事業については、見直し案に係る検討を進め、平成23年度内の策定をめざします。
- ・ 生活排水処理施設整備計画の見直しを通じ、浄化槽で整備することとなる区域の団地の集中浄化槽や、下水道で整備することとなる区域の団地の集中浄化槽の維持管理の在り方について検討していきます。
- ・ 浄化槽事業については、浄化槽県費補助制度の見直し及び生活排水処理施設整備計画の見直しに伴う新しい制度導入に係る事務（条例の整備、要綱改正等）を進めていきます。
- ・ 農業集落排水事業については、未接続世帯への接続啓発を実施し、更なる供用率の向上をめざしていきます。
- ・ 下水道整備に当たっては、占有物件の移設協議や住民説明を行い、効率的な事業推進に努めます。  
また、下水道事業に係る国・県の動きを注視し、事業費確保に向けた取組を進めつつ、効果的な事業展開を図ります。
- ・ 引き続き、公共用水域の水質保全に向けて、下水道事業の推進、農業集落排水の供用率向上及び浄化槽設置の促進に努めます。

### (3) 治水・治山対策の総合的な推進

(農林水産部、環境部、下水道部、建設部)

#### 前期基本計画における目標

- ・ 雲出川水系（雲出川・雲出古川・波瀬川）、相川水系（相川・天神川）、安濃川水系（安濃川・岩田川・三泗川）、志登茂川水系（志登茂川・横川）の河川改修事業を促進するとともに、準用河川五六川改修の早期の完成をめざします。
- ・ 高潮対策や地震、津波対策のため、海岸堤防の整備を促進するとともに、雨水幹線の整備区域の拡大を図り、排水機場等の整備、改修と適切な維持管理を通じて、浸水被害の軽減及び防除、排水能力の向上に努めます。
- ・ 土砂災害等を防止するため、県と連携して急傾斜地崩壊防止対策、土砂流出防止対策、地すべり防止対策を進めるとともに、長期的な展望に立った継続的な森づくり活動の促進に努めます。

#### 平成22年度の取組実績

- ・ 雲出川、相川、志登茂川など、国・県に対して着実な事業進捗が図られるよう要望、協議を行うとともに、必要な地元調整などに努めました。
- ・ 河川の改修については、五六川改修工事に係る占用物件の移設及び仮設道路設置を計画どおり実施できました。
- ・ 治水・治山対策の一環として、急傾斜地崩壊対策事業を進め、県事業である美杉町太郎生地内（茶屋垣内地区）の擁壁施工を実施しました。
- ・ 平成21年に発生した台風18号に関連する治山対策等工事について、県と連携し、関係する地権者との協議を実施しました。県に対して、未着手の治水治山工事についての早期着工の要望を実施しました。
- ・ 公共下水道（雨水）事業については、雨水幹線の整備区域の拡大に向け、管渠延長935mの整備を実施しました。

#### 現状における課題

- ・ 県事業である急傾斜地崩壊対策事業の実施に向けて、事業採択必要条件の地元調整、県予算の拡充に努める必要があります。

#### 今後の取組

- ・ 平成23年度の五六川の改修については、道路橋等の実施を予定しており、今後とも総合的な河川改修を進めていきます。
- ・ 引き続き、急傾斜地崩壊対策事業の促進を行い、住民の安全を図っていきます。
- ・ 県に対し、継続的な治水・治山工事の早期着手を要望していきます。

1 まちづくり戦略プログラム - ②自然の恵みの価値創造プログラム

- ・ 平成23年度から半田川田ポンプ場及び野村第二調整池の整備に着手するなど、引き続き、浸水被害の軽減に向けた取組を推進します。

## ③海に開くまちづくりプログラム

### 1 津なぎさまちの整備

(都市計画部)

#### 前期基本計画における目標

- ・津なぎさまち及びその周辺については、津松阪港港湾計画の変更を視野に入れながら、背後地の活用方策や中心市街地との連携、交流拠点として求められる機能や整備内容などの検討を進め、県都の玄関口として、新たな交流と活力を創造する賑わいの創出を図るため、みなとまちづくりの推進に努めます。

#### 平成22年度の実績

- ・市民懇話会を開催するなど、市民参加を図りながら、新都心軸連携計画等の策定に向け、取り組みました。

#### 現状における課題

- ・津なぎさまち整備については、国が津波対策における沿岸部の土地利用の規制等の検討を進めていることなど、土地利用上の過剰の整理・検討の必要があります。

#### 今後の取組

- ・新都心軸の形成に向けて、関係機関との調整や市民等の意見を伺いながら、新都心軸連携計画等の策定を行います。計画策定後は、同計画に基づき、新都心軸の具体化に取り組んでいきます。

## 2 魅力ある津の海的环境整備

### (1) 観光資源の魅力の向上

(商工観光部)

#### 前期基本計画における目標

- ・津の海を有効に活用し、さらなる交流の創出を図るため、白砂青松などの景観保護に努めるとともに、海の家やレジャー・レクリエーション施設を活用した観光エリアの形成を図り、観光資源の魅力向上に努めます。

### (2) 海岸堤防の整備促進

(建設部)

#### 前期基本計画における目標

- ・津松阪港の海岸堤防については、地域住民に親しまれ、海辺とふれあえる景観をもった潤いのある安全な堤防にしていくため、国の直轄事業であるふるさと海岸整備事業により、引き続き鷺崎工区の整備促進を図るとともに、現在、未着手となっている阿漕浦・御殿場工区及び栗真町屋工区の早期事業化を促進します。

### (3) 河芸町島崎町線の整備

(建設部、都市計画部)

#### 前期基本計画における目標

- ・中勢バイパス、国道23号などの広域連携軸や域内の連携軸を補完し、域内外との連携と交流を高める中心的な道路となる河芸町島崎町線については、魅力ある津の海的环境整備の一層の向上のため、ふるさと海岸整備事業栗真町屋工区の事業化と併せ、県と連携しながら整備を進めます。

#### 平成22年度の実績

- ・ふるさと海岸整備事業において、鷺崎工区については、地元調整を行い、計画どおり事業進捗を図ることができました。また、栗真町屋及び阿漕浦・御殿場については、関係機関への要望などを実施し、平成23年度の新規事業採択を得ることができました。
- ・河芸町島崎町線の整備については、海岸整備事業との一体的整備を含め早期整備に向けた取組の要望を行うとともに、市として、必要な測量調査などを行い、県との役割分担などの調整も実施しました。

#### 現状における課題

- ・栗真町屋及び阿漕浦・御殿場の海岸整備事業が早期に着工できるよう地元調整などに努める必要があります。

1 まちづくり戦略プログラム - ③海に開くまちづくりプログラム

- ・ 東日本大震災を受け、国及び県の防災施策に変更が生じる可能性が考えられることから、より一層、関係機関との情報交換及び調整に努める必要があります。

今後の取組

---

- ・ 栗真町屋のふるさと海岸整備事業については、堤防一体的整備を計画している都市計画道路河芸町島崎町線との調整等に努めるなど、早期整備に向けた関係機関との調整をさらに進めていきます。
- ・ 河芸町島崎町線整備については、海岸整備事業の進捗との整合を図りながら、地域住民と一体となって、整備に向けて関係機関との調整に努めていきます。

### 3 漁港等の整備

(農林水産部)

#### 前期基本計画における目標

- ・ 水産業の振興をめざし、活気あるみなとづくりを進め、漁業生産拠点としての機能の向上を一層図るため、漁港等の環境を整えます。

#### 平成22年度の取組実績

- ・ 漁港等の整備に関する取組として、白塚漁港南防波堤延伸事業については、灯台移設の工事を残し、概ね予定どおり達成することができました。また、香良洲漁港の漂砂対策と静穏度確保のための調査について、実施設計に向けた費用対効果の測定等を行うことができました。

#### 現状における課題

- ・ 白塚漁港南防波堤延伸工事の早期完了と香良洲漁港静穏度等調査を踏まえ、香良洲漁港北防波堤延伸事業の実施設計に向けた諸準備が課題となります。

#### 今後の取組

- ・ 漁港施設の老朽化が進む中、施設の長寿命化を図りつつ更新コストの平準化・縮減を図るため、市内3漁港の機能保全計画を策定します。また、香良洲漁港北防波堤延伸事業の実施に向けて関係機関との調整などを進めていきます。

## ④持続可能な地域形成プログラム

### 1 森林・自然アカデミー事業の推進

(環境部、農林水産部、教育委員会、水道局、総合支所ほか)

#### 前期基本計画における目標

- ・ 広大な森林に恵まれた津市の自然環境を市民自らが共通の財産として保全し、将来に引き継げるよう、林業関係者、環境NPO、三重大学をはじめとする多様な主体の参画のもとに、環境学習の拠点づくりなどの森林・自然アカデミー事業に取り組みます。

#### 平成22年度の取組実績

- ・ 三重大学の演習林施設を有効活用し環境学習の拠点づくりを行うことを目的に、三重大学と連携し、親子を対象とした森林・自然アカデミー事業「溪流魚と水生昆虫の生態観察」を平成22年7月31日に三重大学演習林で開催し、13組32名の参加がありました。
- ・ 森林の環境教育等への活用を目的として、平成22年10月28日に美杉優良木材展示会、平成22年10月30日に森林教室、記念植樹を開催しました。また、平成22年度は、新しい試みとして県、三重県緑化推進協会、美杉木材協同組合、中勢森林組合の協同開催により、津地域の小学校高学年を対象とした、津市フットパーク美杉での記念植樹、森林教室、木工教室を開催する準備を進めました。イベントそのものは、台風の影響で中止となりましたが、代替イベントとして、おさかなまつりIN美杉及び津産津消・食の彩典において森林教室等を開催し、多数の参加を得ることができました。

#### 現状における課題

- ・ 森林・自然アカデミー事業については、より多くの参加を頂くため、演習林施設の認知度を向上させることが課題となります。
- ・ 森林教室の取組については、如何に多くの児童、保護者の参加を促していくか、広報、啓発活動の再点検が必要となります。

#### 今後の取組

- ・ 引き続き森林・自然アカデミー事業を実施することにより、三重大学の演習林施設を有効活用した環境学習の拠点づくりを進めます。
- ・ 森林教室の取組については、今後は津、久居、安芸、一志の各地域輪番で森林教室を開催する予定であり、新たな取組として県、三重県緑化推進協会、林業関連団体と協同で開催を継続していきます。

## 2 市民版環境マネジメントシステムの普及促進とごみ減量化

(環境部、各総合支所)

### 前期基本計画における目標

- ・ 「生活かえる！エコエコ家族」事業など、市民版環境マネジメントシステムの普及を促進するとともに、5月30日の「ごみゼロの日」、6月の「環境月間」、10月の「3R推進月間」等にちなんだ統一行動日、月間を設けるなど、環境に対する意識啓発を図ることで、ごみ減量に取り組みます。
- ・ ごみの減量化と再資源化を推進するため、より一層のごみ分別PRの徹底を図る方策として、「ごみダイエット塾」の開催などを進めます。

### 平成22年度の取組実績

- ・ エコシティ津ネットワークとの協働により、小学校での授業、津まつりブース出展等を通じて市民版環境マネジメントシステムの普及促進に努めたところ、平成22年度は平成21年度の約3倍弱の約200家族の参画が得られ、環境負荷の低減に向けた取組が実施されました。  
また、平成22年度は、1年間エコエコ家族に取り組んだ家族を環境フェアにおいて表彰し、より一層の普及促進に努めることができました。
- ・ 「市民清掃デー」を市内全地域において開催し、約60,000名の参加がありました。市民自らが地域の清掃活動を行うことによって、環境美化に対する意識の向上を図ることができました。
- ・ 「ごみダイエット塾」、「ごみ分別ナビゲーション」の開催により3Rの意識の浸透と拡大を進めることができました。

### 現状における課題

- ・ 市民版環境マネジメントシステムについての小学校での授業の回数を増加するための方法を教育委員会との連携により検討する必要があります。
- ・ 市民清掃デーをきっかけとして、自主的な地域美化活動の定着を図っていく必要があります。

### 今後の取組

- ・ 平成23年度以降の市民版環境マネジメントシステムの学習機会については、小学校での授業の回数を増加するため、教育委員会との連携により実施時期、実施対象学年の拡大を検討するとともに、小学校授業以外の環境学習の機会を設けることを検討し、また、「生活かえる！エコエコ家族」のより一層の普及に向けた方策を検討しつつ事業を実施していきます。
- ・ ごみ減量化・再資源化の推進のため、必要な啓発を行うとともに、事業を実施していきます。

### 3 新最終処分場の建設

(環境部)

#### 前期基本計画における目標

- ・ 環境に配慮した安全で安心な処理方式の採用による新最終処分場の建設を推進します。

#### 平成22年度の実績

- ・ 新最終処分場等施設整備区域の87%の用地を取得しました。
- ・ 新最終処分場等施設整備に係る環境影響評価業務（現況調査）を実施しました。
- ・ 新最終処分場等施設整備に伴う、工事車両等の通行に必要な県道の局部改良に着手しました。

#### 現状における課題

- ・ 新最終処分場と共に中間処理施設の一体整備を計画していましたが、収集運搬コスト削減を考慮し、中間処理施設の分離整備に向けた取組を進めています。地域の理解が得られるよう、今後ともさらなる調整が必要となります。

#### 今後の取組

- ・ 環境保全に配慮した事業とするため、引き続き環境影響評価（現況調査～準備書・評価書作成）を実施し、その結果を踏まえた上で、設計、建設工事に着手し、平成27年度末までの完成に向け事業を進めます。

## 4 津エコビレッジ（仮称）の形成促進

（環境部、農林水産部、商工観光部ほか）

### 前期基本計画における目標

- ・ 持続可能な地域形成にとって不可欠な環境産業の振興を図るため、バイオマス等を活かした地域循環型産業の育成や立地促進を図るとともに、風力発電施設や森林・自然アカデミーを活かし、環境をテーマとした地域振興をめざす「津エコビレッジ（仮称）」の形成を促進します。

### 平成22年度の実績

- ・ 国、県及び事業者等において太陽光発電、風力発電、バイオマスなどの新エネルギーの複合的利用方法についての検討が行われており、それらが実施する研究会へ参加しました。

### 現状における課題

- ・ バイオマスについては、エネルギー源としての活用、製品原材料等としての活用など多様な活用法が存在しており、地域振興等の一つの素材となる可能性がありますが、事業を推進するためには、バイオマスに関連の深い農林業における担い手の不足や、バイオマスに係る需給バランスを勘案した採算性などについて検討が必要となります。

### 今後の取組

- ・ 国における環境・エネルギー施策の動向を十分に見据えながら、引き続きバイオマスの採算性等の検討を行っていきます。

## ⑤歴史と文化の拠点形成プログラム

### 1 一身田寺内町の町並み保全と活用

(スポーツ文化振興部、教育委員会、建設部、下水道部、都市計画部、  
商工観光部ほか)

#### 前期基本計画における目標

- ・ 「一身田寺内町地区都市再生整備計画」に基づき、寺内町を囲む環濠や伝統的な町並みなどの歴史的資源について、住環境に配慮しつつ保全を図るなど、暮らしが息づく生きた町並みとして次世代に継承していきます。
- ・ 歴史的な環境を活かした整備を行うことにより、統一された景観形成や、世代の別なく安全で暮らしやすい、落ち着いた良好な生活空間を提供していきます。
- ・ 「一身田寺内町の館」を核に、観光ボランティアガイドとの連携やまち歩きなどを通して、観光資源としての活用や、市民の学習の場としての活用など、知名度を活かした誘客に取り組みます。

#### 平成22年度の取組実績

- ・ 平成22年4月24日及び10月23日に、観光客を迎え入れる活動として地域住民との協働で環濠や寺内町内の清掃を実施し、観光客迎え入れの気運を高めるとともに、地元への愛着心向上、一身田地区の観光・文化・商工業の振興を図ることができました。
- ・ 平成22年5月15・16日に行われた高田本山行事に併せて、寺内町において「一身田寺内町観光振興懇話会」の企画により開催されたイベントを支援しました
- ・ 寺内町のビューポイントに昔の風景と対比した写真と説明入りの看板を4箇所を設置しました。
- ・ カラー舗装等の修景整備については、地域住民らが参加する寺内町整備推進委員会で意見交換しながら、工事の事前準備を推進しました。

#### 現状における課題

- ・ ハード事業（カラー舗装等）において、高田本山専修寺内の改修工事並びに下水道工事を進めていく必要があります。

#### 今後の取組

- ・ 今後とも、一身田寺内町の町並み保全の一環として、地域住民が主体となった環濠や寺内町内の清掃を実施するとともに、観光誘客を図っていきます。
- ・ 一身田寺内町のハード事業の取組としては、道路カラー舗装、側溝等の修景整備を推進するとともに、ソフト事業としては専修寺と連携した音楽鑑賞会等の開催、一身田寺内町地域活性化事業（環濠等の浄化活動、まちづくり活動・観光情報等の広報活

動)、高田本山行事に併せた一身田寺内町の中でのイベント等を企画し、観光誘客を図っていきます。

## 2 多気北畠氏城館跡周辺地区の保全と活用

(教育委員会、スポーツ文化振興部、商工観光部、美杉総合支所ほか)

### 前期基本計画における目標

- ・ 多気北畠氏遺跡の価値とその構成要素を明確化し、適切な保存管理を行っていくため、保存管理計画を策定するとともに、歴史的価値の保存・活用を図ります。
- ・ 貴重な歴史資源や豊かな自然を活かしたまち歩きコースの活用や、伝統芸能などとの連携による地域振興を図ります。
- ・ 歴史の道百選にも選ばれた伊勢本街道の道標、家並みの保全・活用、有形・無形文化財の保護と史跡の管理、歴史・文化の伝承活動などを進めます。
- ・ 三重県とも連携し、地域住民が主体となった歴史・文化が息づく地域づくりを進めます。

### 平成22年度の取組実績

- ・ 多気北畠氏遺跡の学術調査を実施するとともに、「多気北畠氏遺跡保存・活用協議会」を設置し、地元関係者の意見を聴取しました。併せて詰城跡の景観整備や県道沿い未指定地の用地測量等を実施しました。

### 現状における課題

- ・ 「多気北畠氏館跡庭園保存管理計画」の策定に関し内容の検討と、整備に向けた県道隣接地所有者との調整が課題となります。

### 今後の取組

- ・ 今後は、「多気北畠氏館跡庭園保存管理計画」を策定するとともに、県道隣接地の国史跡の追加指定を推進します。また、霧山城跡の景観整備を進めていきます。
- ・ 多気北畠氏遺跡に残る歴史的資源や文化的景観などを有機的に結びつけて賑わいのあるまちづくりを進めるため、国史跡内にある北畠神社境内で、北畠氏にゆかりのある能、狂言の開催、また茶会、邦楽演奏を行い、広く市内外に紹介することで、その魅力を再発見してもらうとともに、文化の振興・地域の活性化を図ります。

### 3 津城跡（お城公園）周辺地区の整備と活用

（スポーツ文化振興部、教育委員会、建設部、商工観光部）

#### 前期基本計画における目標

- ・ 津城跡の本質的な価値を明確にし、次世代に伝えていくため、津城跡保存管理計画を策定するとともに、歴史的価値の保存・活用を図ります。
- ・ 公共施設等の有効利用による歴史資料室の開設や、ゆかりの地の碑の設置、観光ボランティアとの連携などにより、城下町の町並みや藤堂高虎公の功績を広く地域内・外の人に知ってもらうための取組を進めます。
- ・ 津城跡については、市民の機運の高まりを踏まえつつ、復元について調査研究を行います。

#### 平成22年度の取組実績

- ・ 「津城跡整備活用基本計画」の策定に向け、基礎資料の調査（古文書・古写真・絵図調査）や、津城跡石垣レーザー測量調査（本丸東・南側）を実施しました。
- ・ 津城跡の整備に関し、市民2,000名を対象にアンケート調査を実施しました。
- ・ 津城跡の整備活用を検討するため、「津城跡の整備活用検討懇話会」を設置し、会議を2回開催しました。
- ・ 藤堂高虎公の業績や津城を広く知っていただくために、市民ボランティアガイドの協力を得て「藤堂高虎公情報センター『シロモチくんの館』」を夏休み期間中や津まつり会場内に開設しました。
- ・ 緊急雇用創出事業を活用し、マスコットキャラクター「シロモチくん」による藤堂高虎公PR活動や、パンフレット作成などを行い、さらなる市民の藤堂高虎公、津城への関心を高め、津城復元に向けた気運を高めることに努めました。
- ・ キャラクターPR事業として市内外のご当地キャラクターを招聘し、大門においてイベントを実施し、子ども向けのトレーディングカードや、津をイメージしたポスターの作製など、津市の情報発信に努め、市民への藤堂高虎公、津城への関心を高めることができました。
- ・ 平成20年度の「藤堂高虎公入府400年事業」を受け、高虎公入府後の藤堂藩の功績やゆかりの地についての周知を図るために、津市内の藤堂藩ゆかりの地として、長野宿や高野井など、計7箇所にいしぶみを設置しました。

#### 現状における課題

- ・ 津城跡整備については、市民にもたらす効果や整備に伴う費用確保の方法など、他市の例も踏まえ、総合的に検討を行う必要があります。
- ・ 平成23年度は津城修築400年の節目の年であることから、津城跡への関心を高めるチャンスとし、さらなる啓発を図る事業を展開する必要があります。

- ・ 藤堂藩ゆかりの地へのいしぶみ設置事業については、いしぶみの設置場所の選定及び設置に向けた調整が課題となります。

#### 今後の取組

---

- ・ 平成23年度は、藤堂高虎公が津城を修築して400年の節目の年にあたることから、記念講演会やPR活動を実施し、津市の歴史文化の再認識、全国の藤堂高虎公ゆかりの地との交流、全国に向けた情報発信につなげていきます。
- ・ 藤堂藩ゆかりの地へのいしぶみの設置を継続して行うとともに、ボランティアガイドへの情報提供を含め、いしぶみそのものの情報発信を進めていきます。

## 4 千歳山の保全と活用

(政策財務部、建設部)

### 前期基本計画における目標

- ・ 藤堂藩のゆかりの地であり、16代川喜田久太夫（川喜田半泥子）の陶芸の創作の地であった千歳山については、歴史的な経過を踏まえ、文化的、環境的側面等を活かした市民の憩いの場となるよう検討しつつ、市街地にまともって緑が残された公園として、その保全と活用を図ります。
- ・ 市民の創作活動や体験を通じ、身近に文化に触れることのできるアトリエ等の施設を検討し、整備を図ります。

### 平成22年度の取組実績

- ・ 「千歳山を考える会」において整備及び活用に関する最終意見を取りまとめたいただくとともに、最終意見を平成23年2月4日に提出していただきました。
- ・ 平成22年11月21日に市民等を対象とした現地視察会を開催し、千歳山の整備に対する意見を頂きました。
- ・ 同地の維持管理については、千歳山前市道沿い及び区域内の草刈りを年3回実施しました。

### 現状における課題

- ・ 「千歳山を考える会」からの最終意見書を踏まえ、千歳山の整備基本構想の具体の策定に取り組んでいきますが、この中で奈良県内に保管されている部材を活用した本宅の復元に対する強い要望があり、調査・研究が必要となります。

### 今後の取組

- ・ 千歳山の整備に係る基本構想の策定を行うとともに、課題となる本宅の復元に係る調査・研究を実施していきます。また、具体的な管理・運営方法の検討と周辺環境の維持管理を進めていきます。

## 5 文化芸術の拠点性の向上

(スポーツ文化振興部、教育委員会)

### 前期基本計画における目標

- ・ 三重県が検討を進める新しい博物館について、本市への整備を促進します。
- ・ 市民の文化・芸術の鑑賞や発表、練習等の場として、文化施設の有効活用を図ります。

### 平成22年度の取組実績

- ・ 平成21年度に、本市が建設予定地として選定されました。

### 今後の取組

- ・ 新博物館について、県や関係機関と協力して整備を促進していきます。
- ・ 公共施設等について、市民の文化・芸術の鑑賞や情報発信の場として活用できるよう、検討を進めます。

## ⑥健康とスポーツの振興プログラム

### 1 まち歩き（ウォーキング）による健康づくりの促進

（健康福祉部、商工観光部、スポーツ文化振興部、総合支所ほか）

#### 前期基本計画における目標

- ・運動不足を解消し、生活習慣病を予防するために、生活の身近な場所や、あらゆる機会を通じて、市民が自主的に健康づくりに取り組めるよう、まち歩き（ウォーキング）を促進し、日常的に体を動かす習慣づくりに取り組みます。
- ・セラピーロードをはじめとする、自然や歴史など本市の多様な資源を活用したウォーキングコースにおいて、体験し、学び、癒されるなど、歩くことに楽しむ要素を加えたまち歩きを積極的に推奨するとともに、イベントの開催など観光振興をはじめとしたまちづくりのさまざまな機会において歩く機会を創出することで、市民の健康づくりと集客交流のまちづくりを総合的に進めます。

### 2 地域特性を活かしたウォーキングコースの設定と全国規模の大会開催

（健康福祉部、商工観光部、スポーツ文化振興部、総合支所ほか）

#### 前期基本計画における目標

- ・地域特性を活かした新たなウォーキングコースの設定やウォーキングマップの作成、コースの案内板等の設置など、楽しみながら歩くことができる環境づくりに取り組みます。
- ・全国規模のウォーキング大会の開催に向けた取組を進めます。

### 3 健康づくりやスポーツ振興に取り組むための地域ネットワークづくり

（健康福祉部、スポーツ文化振興部）

#### 前期基本計画における目標

- ・市民の健康づくりやスポーツの振興に向けて、それぞれの活動を支援するボランティアの育成に努めるとともに、地域で健康づくりやスポーツ活動に取り組んでいる個人や団体などのネットワークづくりに取り組むなど、市民の主体的な活動を促進します。

#### 平成22年度の取組実績

- ・市民の健康づくりの一つとしてウォーキングの普及を図るため、津市の各地域における、名所旧跡や観光スポットを巡るウォーキングコースを10コース設定しましたが、平成22年度は、体育館等の市所管施設などで、ウォーキングマップの配布を行うとともに、市ホームページからもダウンロードできるようにし、情報提供範囲を拡大しました。

- ・ 健康づくりを推進する協働者として、ヘルスポランティア（健康づくり推進員、食生活改善推進員、母子保健推進員）の養成を行っており、健康づくり推進員等による地域でのウォーキング活動や歴史街道ウォーキングなどを推進しました。

#### 現状における課題

---

- ・ ウォーキングに関する市政アンケートの結果等から、高齢者は比較的運動に取り組んでいるものの、若い働き盛り世代の運動不足が課題であり、今後も継続的、戦略的な取組が必要となります。

#### 今後の取組

---

- ・ 津市健康づくり計画には「楽しく運動しよう」と掲げ、身近な運動の一つとしてウォーキングを勧めています。ウォーキングも含め、健康な生活習慣を身につけるために日常の運動量が増加するような啓発を進めていきます。

## 4 総合的なスポーツ施設の整備

(スポーツ文化振興部、総合支所)

### 前期基本計画における目標

- ・ 全市的に市民が広く利用でき、健康づくりや競技スポーツ、生涯スポーツ活動の拠点となるよう、スポーツ指導者・関係競技団体等の専門的な意見も参考にしつつ、県都にふさわしい総合的なスポーツ施設の整備に向けた取組を進めます。
- ・ 既存のスポーツ施設については、施設の機能を拡充するなど、市民のニーズに対応した施設整備に取り組みます

### 平成22年度の取組実績

- ・ 平成22年5月に津市スポーツ施設整備基本構想の策定を行い、各施設の利用状況と整備・活用方針について示しました。また、同構想において、主な拠点となるスポーツ施設(体育館、野球場、プール、サッカー、フットサルコート及びテニスコート)の整備・充実を掲げ、津市体育館、津市民プール、武道場については総合的な屋内スポーツ施設の整備と位置付けました。
- ・ 平成22年8月に、屋内スポーツ施設の整備に係る基本計画策定のため、屋内総合スポーツ施設基本計画策定委員会を新たに設置しました。  
同委員会において、施設の機能や配置、管理運営方法、周辺の道路整備、排水整備などを含めた関連施設計画の検討を行いながら、基本計画策定をめざし事業を推進しました。
- ・ 平成22年10月に、市議会全員協議会を開催し、津市拠点スポーツ施設エリア構想(案)について協議を行いました。

### 現状における課題

- ・ 建設候補地に係る地元協議・調整、埋蔵文化財発掘調査、設計などの業務を的確に進める必要があります。

### 今後の取組

- ・ 津市屋内総合スポーツ施設基本計画を策定し、用地買収や、現地の埋蔵文化財に関する試掘を含む各種調査を行うとともに、施設整備に向けた基本設計を推進していきます。

## 2 元気づくりプログラム

### ①住みやすさ向上プログラム

#### 1 支え合いによる暮らしの安心づくり

(健康福祉部)

##### 前期基本計画における目標

- ・ 地域社会における子育て支援や健康づくり、高齢者の生きがい対策、精神的孤立の防止などの社会問題に対して、ささえ愛ひろめ隊事業の推進を通じて、市民が相互に支えあえる仕組みづくりを行い、地域に元気を広めていきます。

##### 平成22年度の取組実績

- ・ 「津市地域福祉計画」を具体化し実践し、地域での支え合いの仕組みづくりを支援するため、地域における活動のきっかけや現在の活動、地域の実情に応じた具体的な取組を積極的に展開している地区社会福祉協議会の活動の事例を集めた「津市地域福祉活動事例集」を作成しました。
- ・ 災害時要援護者支援活動に係る支援者への情報提供については、平成22年9月に実施要綱を策定し、民生委員の協力を得ながら要支援者に係る情報収集（登録者の申請受付）を実施しました。

##### 現状における課題

- ・ 「ささえ愛ひろめ隊事業」において実施した事業については、実施後に地域においてどのように活用していけるかなどの検証が必要となります。

##### 今後の取組

- ・ 「ささえ愛ひろめ隊事業」の目的である、地域における様々な人たちが相互に支え合える共助の仕組みづくりを達成するため、社会福祉協議会と連携し、平成21年12月に策定した「津市地域福祉計画」の推進に努めつつ事業に取り組んでいきます。

## 2 市民主体の環境活動の推進

(環境部)

### 前期基本計画における目標

- ・ 市民の手によるエコ活動や情報発信などの拠点である市民エコ活動センターについて、市民との協働による運営を推進します。
- ・ エコ講座の開催や地域におけるエコ活動リーダーの育成などを通じて、市民が自発的に環境活動に取り組める仕組みづくりを進めます。

### 平成22年度の取組実績

- ・ 市民によるエコ活動や情報発信などの拠点である市民エコ活動センターを市民団体の「エコシティ津ネットワーク」が運営し、定期的なエコ講座の開催に加え、古布等を活用した市民の手作り作品や、地元産の野菜等を販売するフリーマーケットを開催しました。
- ・ 市民エコ活動センターについて、公民館文化祭やショッピングセンター等においてPR活動を実施したほか、同センターのホームページにおいて情報更新を行い、情報発信拠点としての機能維持を図りました。

### 現状における課題

- ・ 各種イベントの開催やPRにより、市民エコ活動センターについての市民の認知は高まりつつあるが、今後さらなる啓発等により、同センターの認知度を高める必要があります。

### 今後の取組

- ・ 各地域の環境団体との連携を深め、自主的な環境活動を徐々に全市域に拡大し、エコリーダーを中心とした環境活動の推進が図られるよう、人材の発掘・育成をめざしていきます。

### 3 地域の消防防災力の向上

(危機管理部、消防本部)

#### 前期基本計画における目標

- ・ 地域における防災力向上のため、市民を対象に防災知識等の習得を目的とした津市民防災大学の活動等を通じて地域防災活動の活性化に努めるとともに、消防防災指導センターを設置するなど、地域の実践的な消防防災力の向上の仕組みづくりを進めます。

#### 平成22年度の取組実績

- ・ 地域住民等により企画・運営される「津市民防災大学」において、防災に関する講義や演習・実習等の体験型学習を実施したところ、平成22年度には32人が受講し、平成22年度及び平成21年度再受講生を合わせ19人が全講義を修了しました。  
受講生が防災に関する基礎的な知識や技能を習得することができ、受講生に対して行ったアンケートでは、大変有意義であったとの回答を多く得ることができるなど、効果的に事業を実施できました。
- ・ 消防防災指導センターにおいて、平成22年度には市民等を対象に584件の消防・防災に関する指導を行い、市民の消防防災意識の向上に寄与することができました。

#### 現状における課題

- ・ 「津市民防災大学」については、これまでの修了生が連携し地域の防災力の向上に寄与する仕組みを検討するとともに、年々受講生の減少が見られることから、受講生確保に関する取組を進める必要があります。
- ・ 消防防災指導センターの指導回数は、平成21年度に比べ増加しており、新たな事業展開も検討していることから、指導体制の機能強化、拡充を行う必要があります。

#### 今後の取組

- ・ 「津市民防災大学」については、実行委員会の活発な議論のもと、事業の運営が行われており、今後も受講生の防災に関する知識の習得はもちろん、修了生に対してもフォローアップ研修を行うなど知識の向上を図っていきます。また、修了生の活用方法や受講生の募集方法についてさらなる検討を行い事業を進めていきます。
- ・ 消防防災指導センターについては、事業を継続しつつ、機能強化及び拡充に向けた取組を進めます。

## ②元気な人づくりプログラム

### 1 地域連携センターの設置と地域貢献の推進

(三重短期大学、教育委員会、健康福祉部、商工観光部、市民課ほか)

#### 前期基本計画における目標

- ・ 三重短期大学において、地域連携センターを設置し、地域のシンクタンクとしての機能充実を図るとともに、市内の各地域において、生涯学習の一環として高等教育が受けられる機会の提供に取り組みます。
- ・ 市内に立地する大学や地域と連携して、市民の健康づくりに不可欠である食育や子育てをはじめ、地域医療、環境問題などの健康都市教育に取り組みます。
- ・ 生涯学習に対する市民ニーズが多様化・高度化する中、それに的確に対応するため、一般教養講座から、専門ゼミナールまで、多様な生涯学習機会を提供していくなど、元気な津市づくりを担う人材育成に取り組みます。

#### 平成22年度の取組実績

- ・ 三重短期大学地域連携センターにおいて、地域連携事業を実施し、産学連携・高大連携では新規に三重TLOと連携したほか、県立相可高校と高大連携協定を締結し事業を実施しました。また、市政連携、政策研修等では、当初計画どおり2つのテーマで実施しました。その他、新たに地域清掃ボランティアや地域連携サポーター制度を導入するなど新たな展開を行いました。
- ・ 三重短期大学における大学・地域連携の仕組みづくりについては、市内4大学学生参加による人形展の実施・商工会議所との意見交換会、三重大学生物資源学部、教育学部との連携事業を実施しました。
- ・ 三重短期大学における特別講座を通じた積極的な生涯学習機会の提供の取組として、平成22年度は「地域連携講座」を6回、「地研セミナー」を3回、「アカデミックセミナー」を1回、「朗読会」を1回企画し、また、「あのかつアカデミーセミナー」、「地域問題研究交流集会」を含め、530名の参加を得ました。

#### 現状における課題

- ・ 三重短期大学における地域連携事業については、学内外から積極的な参加、協力が得られるよう、さらなる工夫（新規事業、周知等）が必要となります。また、大学・地域連携の仕組みづくりについては、「教育」を中心とした連携の仕組みづくりに向け、学内、大学間の調整が必要となります。
- ・ 三重短期大学における特別講座の実施については、積極的な参加が得られるよう地域ニーズと教員研究シーズのマッチングによるテーマ設定、効果的な周知活動が課題となります。

## 今後の取組

---

- ・ 三重短期大学においては、今後とも産学連携、高大連携の充実を図りつつ、政策研修や協働事業を通じ、市政と連携する取組を強化するとともに、学部・学科間の連携など大学・地域連携の仕組みづくりを進めていきます。
- ・ 三重短期大学における特別講座の実施については、今後とも課題を踏まえつつ地域連携講座、地研セミナー等を通じ、市民の皆様に生涯学習の機会を提供していきます。

## 2 地域の学びづくりの拠点づくり

(教育委員会、三重短期大学、商工観光部、市民部)

### 前期基本計画における目標

- ・ 学校を地域の学びの拠点として位置付け、地域における人材の育成や、地域の活力を生み出す取組を進めます。
- ・ 美杉地区や美里地区、芸濃地区を中心に、保幼小中連携を進め、地域の子どもたちの生きる力、とりわけコミュニケーション能力の育成をめざした教育の充実を図ります。
- ・ 社会人講座等の開催などによる地域の教育力の向上や、学校教育への地域の特色や地域の専門家等の人材の活用など生涯学習分野と連携した「共育」の仕組みづくりに取り組みます。

### 平成22年度の取組実績

- ・ 地域の人々が学習支援ボランティアとして参画したり、地域の人々と子どもたちの交流等を行うことで、保育園・幼稚園・小学校・中学校が地域の特色を活かしながら、地域を大切に子どもたちの育成を図りました。
- ・ 学校間交流による合同学習や、地域の人材を活用した英語活動を充実させることで、子どもたちのコミュニケーション能力の育成を図りました。
- ・ 学校が地域の学びの拠点となるよう、美里地域において学校施設を使ったパソコン教室を実施し、保護者・地域の人々がパソコンを学ぶ機会を作りました。

### 現状における課題

- ・ 美杉地域の英語活動指導員の配置が困難な状況にあり、資格にかかわらず、英語活動を支援できる人材確保をしていく必要があります。
- ・ 学校が地域の学びの場となるよう、施設利用に係るルールづくりを行う必要があります。
- ・ 学校間交流や英語活動を中心としたコミュニケーション活動等は、子どもたちの「生きる力」の育成に効果的であったことから、活動の充実方策について検討する必要があります。

### 今後の取組

- ・ 地域学びの拠点づくり事業の中で、学校間交流の開催、地域交流における発表、英語活動支援員の配置等を実施することにより、教育の質の向上を図りながら、学校と地域が連携して「共育」していく教育システムの構築をめざしていきます。

### 3 津市げんき大学の活動促進

(市民部)

#### 前期基本計画における目標

- ・ 市民主導による講座の開設や、気軽に参加できるイベントの開催など、広く市民に親しんでもらえる場の提供に取り組みます。
- ・ 講座の受講を通じて、地域資源の発見や市民同士の交流促進につなげていきます。
- ・ 津市を元気にしようという想いの人が集まった「津市げんき大学」の活動を通じて、地域で活動するボランティアを育成するなど、まちづくりの担い手の育成や協働の展開など市民が自らの手で取り組める仕組みづくりを支援します。

#### 平成22年度の取組実績

- ・ 写真・編集をテーマとした講座「た津じんのたまり場」を実施しました。
- ・ メディア分校において、「津市げんき大学TVげんてれ。」の制作、放送を実施し、また「アイラブ津市フォトコンテスト」を実施しました。
- ・ まちの元気サポート室において、スリーアローズ盛り上げ隊事業として、津球場を本拠地とする「三重スリーアローズ」のPRやワークショップを実施しました。
- ・ 津まつりにおける情報発信として、インターネット（津のまちTV）で津まつりの実況や津を愛する人たちのインタビューを中継し、また、津市げんき大学事業のPRを実施しました。
- ・ 「津うのうなぎプロジェクト」や「津ぎょうざご当地グルメプロジェクト」を推進し、津市への誘客・津市の活性化につながる活動を実施しました。

#### 現状における課題

- ・ 津市げんき大学においては、新しいまちづくり人材の発掘、新たな実行委員の加入促進、ご当地グルメとして認知されつつあるうなぎや津ぎょうざを全国発信するための仕組みづくりが課題です。

#### 今後の取組

- ・ 今後とも、地域を見直し、津市のいいところを再発見することのできる講座や事業を実施することで、地域のまちづくりの担い手を育成していくとともに、これまで構築してきた人的ネットワークの充実を図っていきます。
- ・ 活動を通じて企画された津市を盛り上げ元気にするための事業（プロジェクト）を強化し、全国発信していきます。

### ③若者定住プログラム

#### 1 魅力のある産業の育成と雇用の場づくり

(商工観光部)

##### 前期基本計画における目標

- ・ 三重県産業支援センターや三重県科学技術振興センター等関係機関との連携のもと、産業振興センターを設置し、企業間や産学官の活動の場として利活用を促すとともに、広域連携を踏まえた本区域の中核施設として活用を図ります。
- ・ 企業や大学等研究機関の研究者が集い、企業ニーズと大学等の研究シーズとのマッチングの仕組みづくりに取り組むとともに、研究者等の人材育成の場として、産業振興センター内に大学等研究成果活用プラザ（仮称）を設置します。
- ・ 国立大学法人三重大学キャンパス・インキュベータや三重県産業支援センター等関係機関との連携のもと、研究開発型産業基盤の整備などを通じ、ベンチャー等新産業の創出と支援に取り組めます。
- ・ 企業立地の促進にあたっては、「津地域産業活性化基本計画」に指定する業種を誘致対象の中心として、本市の優位性のPR、他地域との差別化、きめ細かい立地サポートなど戦略的に取り組めます。

##### 平成22年度の取組実績

- ・ 中勢北部サイエンスシティ及びニューファクトリーひさい工業団地への企業誘致のため、企業訪問をはじめ、各種PR、情報発信及び収集などに積極的に取り組み、首都圏において、また関西圏の大阪、京都方面において誘致活動を強化し、平成22年度は2社の誘致に成功しました。
- ・ 県とともに本市が取り組む「メカトロ技術を活用した関連産業の集積・形成」を促進するため、あかつピアにおいてメカトロセミナーや技術者育成講座等を開催したほか、企業が製造現場で抱える課題を掘り起こし、メカトロ技術を活用して課題を解決するメカトロサプライヤー企業とのマッチングを行いました。
- ・ 研究開発型産業の育成を図るため、中小企業が取り組む新技術・新製品の開発事業（1件）及び人材育成事業（4件）に対し補助金を交付しました。
- ・ 企業訪問等により情報収集・提供を図るとともに、産学・産産連携に向けた勉強会の開催、コーディネーター等の専門家による起業家・企業・事業者の育成支援、地域資源や知的財産の活用を推進しました。

## 現状における課題

---

- ・ 企業訪問、企業展等でのPR、情報発信及び収集などの誘致活動にスピーディーかつ積極的に取り組み、特に交通アクセスが容易になった京都方面への企業へのアプローチの方法やネットワークの構築が必要となります。
- ・ 製造現場へのメカトロ技術の導入と技術の高度化を促進していくためには、サプライヤー企業が各々得意とする技術を持ち寄り、連携して企業の課題解決を図る自立的な取組が必要です。
- ・ 産学・産産連携や専門家による育成支援を展開していくためには、対象となる事業の継続性・発展性を考慮する必要があります。

## 今後の取組

---

- ・ 中勢北部サイエンスシティ及びニューファクトリーひさい工業団地への企業誘致の促進のため、積極的な誘致活動を展開していきます。特に中勢北部サイエンスシティについては、本年4月より国道23号中勢バイパス沿い産業区域の新規分譲を開始したため、製造業を中心とした誘致活動に取り組んでいきます。
- ・ メカトロ技術人材の育成、サプライヤー企業が持つ開発技術と企業が製造現場で抱える課題の発掘及び企業マッチングを一層進めるとともに、サプライヤー企業がグループを組み、企業の課題解決支援を自立的に展開できるよう必要な連携体制づくりに取り組めます。
- ・ 引き続き、中小企業の取り組む研究開発や人材育成への助成、企業訪問等による情報収集・提供、産産・産学連携に向けた勉強会の開催を進めるとともに、専門家による起業家・企業・事業者の育成支援などを継続性・発展性を踏まえて実施していきます。

## 2 子育てをしやすい環境づくり

(健康福祉部、総務部、教育委員会ほか)

### 前期基本計画における目標

- ・「津地区次世代育成支援行動計画（計画期間 平成17～21年度）」のもと、母子保健、児童福祉、学校教育など各施策分野において、妊娠・出産及び子育て、子育て環境の整備や子ども、家庭の自立支援等、総合的な子育て支援施策の展開を図ります。
- ・本市の広大な市域において、どの地域においても子育て支援サービスを同様に選択し利用できるよう、ICT（情報通信技術）を利活用した子育て支援システムの構築に取り組むなど、子育てをしやすい環境づくりを整え、若者の定住を促進します。
- ・ささえ愛ひろめ隊事業の推進のもと、子育てをしている人・グループなどのネットワークづくりに取り組み、お互いの活動内容を共有するなかで、相互に子育てを支えあえる仕組みづくりに取り組みます。

### 平成22年度の実績

- ・ みえ子育て支援研究会との協働により、子育てに関する支援者（子育て広場担当者、母子保健推進員、民生児童委員等）を対象に「子育て支援研修会」を実施しました。
- ・ パパ・ママ向けのベビーマッサージ教室、支援者向けの食育・発達支援等についての講座を地域活動団体と協働で開催し、人材育成等の機会を提供しました。
- ・ 芸濃子育て支援センターで、地域の支援者とともに子育てイベントを月1回実施するとともに、7月からジャスコ久居店の子育て広場の開設、支援を実施しました。

### 現状における課題

- ・ 子育て支援センターをはじめとする子育て広場は、地域の人材を活かして運営をしていく地域での組織づくりが必要です。

### 今後の取組

- ・ これまでの保育園併設の子育て支援センターに加え、地域ぐるみの支え合いにより運営する子育て支援センターや、子育て広場の開催を支援することにより、育児に関する親の相談等に対応し、育児不安の解消を図っていきます。
- ・ 子育て支援センターや子育て広場における地域の支援者団体による主体的な運営を視野に入れながら、地域子育てスタッフの育成と支援を実施していきます。

## ④交流による活力創造プログラム

### 1 まち歩きシステムの整備

(健康福祉部、商工観光部、スポーツ文化振興部ほか)

#### 前期基本計画における目標

- ・ 点在する観光資源を結ぶループバスの運行を図るとともに、周辺地域の特性を活かした「まち歩きシステム」の整備に取り組みます。
- ・ 古い町並み保全などの景観整備を促進するとともに、歴史街道等を活用した観光ルートづくりに取り組みます。
- ・ 近年の多様な観光ニーズに対応するため、各地域の持つ豊かな資源を活かした体験型観光プログラムの創出や健康をテーマにした森林セラピー基地の整備などを行います。
- ・ 中心市街地と各地域との交流・連携を図るとともに、中心市街地の歴史文化資源を有効に活用したウォーキングを継続的に実施するなど、中心市街地でのまち歩きシステムを構築し、歩いて回遊・滞留できる環境をつくり、街や個店の魅力再発見と集客を図ります。

#### 平成22年度の取組実績

- ・ ふるさと雇用再生特別基金事業を活用し、津駅、なぎさまちを発着点とした観光地巡回バス事業を実施しました。県内の伊勢、松阪、四日市のほか、対岸の常滑、知立方面にもPRを行い、運行回数は延べ90回、1,058名の利用がありました。
- ・ 歴史街道推進協議会の実施する歴史街道市町村共同事業へ参加し、大河ドラマ「江」ゆかりの地の伊勢上野城（本城山青少年公園）において歴史街道スタンプラリー2010を実施するとともに、リーフレットも併せて配布し、ラリーを通じて観光客の誘致を図りました。  
スタンプラリーの実施により、歴史街道推進協議会のパンフレット、ホームページなどにより、関西地区を中心とした広域的な『「江」ゆかりの地津市』としての情報発信ができ、かつ本城山青少年公園展望台資料室に設置したスタンプによる誘客を図ることができました。（平成22年11月のオープンより平成23年3月末現在で14,028人が来場）

#### 現状における課題

- ・ 観光地巡回バス事業については、津市の観光資源をより広く周知するため、市外からの利用者増をなお一層図る必要があります。
- ・ 歴史街道推進協議会との共同事業については、大河ドラマ「江」のゆかりの地として、引き続き歴史街道としての情報発信を行うことが課題となります。

#### 今後の取組

- ・ 観光地巡回バス事業については、隣接市をはじめ、県外の市や観光協会への協力を求め、市外からの利用者増を図ります。
- ・ 大河ドラマ「江」放映年にあたる平成23年に、より一層の情報発信による誘客を図るため、引き続き歴史街道推進協議会実施の共同事業（スタンプラリー）に参加していきます。

## 2 観光サービスの充実と広域連携の強化

(商工観光部)

### 前期基本計画における目標

- ・ 市民と観光客が心温まる交流が促進されるよう「おもてなしの心」の醸成に努め市民との協働による仕組みづくりに取り組みます。
- ・ 観光ボランティアガイドの育成を図り、きめの細かい観光サービスの提供に努めます。
- ・ フィルムコミッションや郷土芸能団体などの観光に関連するボランティア団体、NPO法人の育成・支援を図るとともに、これら市民団体等との協働による観光振興に取り組みます。
- ・ 三重県や近隣都市及び三重県観光連盟との連携を強化し、広域ネットワーク化を図り、魅力ある広域での観光ルートの設定などに取り組みます。
- ・ まち歩きシステムの整備、協働・連携による観光の振興に加え、様々な場面を捉え、交流人口100万人の創出をめざした取り組みを進めます。

### 平成22年度の取組実績

- ・ 河芸地区については、平成22年4月に「河芸「江」の会」を立ち上げ、大河ドラマ「江」に関心のある観光客に対して地域の観光資源の案内を実施しました。また、芸濃地区については、月1回定期的に会合を開き、観光ボランティアガイド立ち上げについての勉強会を行いました。  
結果として、新たに河芸・芸濃・安濃の3団体の設立があり、ほぼ市全域の観光資源の案内が可能となるとともに、各観光ボランティアガイド団体に対し事業補助を実施したことによって、各団体の活動と観光客への「おもてなし」の充実が図られました。
- ・ 奈良県の東大和地区（宇陀市・御杖村・曾爾村）と津市・名張市・伊賀市を結ぶ広域観光ルートの創出を目的として、平成22年9月23日から9月25日まで平城遷都1300年記念会場において、東大和西三重観光連盟として観光PRブースを出展しました。
- ・ 近鉄と共同で観光案内チラシを作成し、沿線主要駅での掲出を行っているほか、関西地区・東海地区でのPRを意識し、3市（津市・名張市・伊賀市）が連携し雑誌への広告掲出を行いました。
- ・ 食をテーマにした地元ムックへの広告を掲載するほか、FMラジオを通じて、県内における誘客活動を展開しました。
- ・ 広域連携を行っていることにより、平城遷都1300年イベントへの出展が可能となり、多くの来場者に効率よく津市の観光資源をPRでき、また、広域連携による広告宣伝を行ったことにより、観光資源に面的な広がりを見せることが可能となり、大きな誘客効果が得られました。

## 現状における課題

---

- ・ 市内にある観光ボランティアガイド団体が継続的な活動が出来るよう、育成支援していく必要があります。
- ・ 広域における観光PRは、連携を組む各市村との連絡調整を密にするとともに、共同での観光PRを継続的かつ積極的に図っていく必要があります。

## 今後の取組

---

- ・ 観光ボランティアガイド団体としての資質向上を図るための研修会・講演会等を開催するとともに、歴史街道の整備等、地域資源の魅力向上を図るための取組を実施するほか、それら観光案内に必要な様々な取組への支援を実施していきます。
- ・ 広域連携による観光PR事業については、今後、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌等のメディアを活用した観光PR活動、地域物産展等イベントを活用した地域資源のPR活動の実施とともに、それぞれの地域にある魅力ある観光資源を活用した観光振興施策を展開していきます。

### 3 交流人口100万人の創出をめざした取組

#### (1) 観光レクリエーション入込客の増加

(商工観光部、スポーツ文化振興部ほか)

#### 前期基本計画における目標

- ・既存の祭りなどのイベントをより一層充実させるとともに、地域に根ざした新たな事業等の推進に取り組むなど地域の魅力向上に努め、交流人口の増加を図ります。
- ・県都としての都市機能や交通結節点としての優位性を活かし、全国的・広域的なコンベンションやウォーキング大会の誘致や開催に向けた取組を推進するなど、交流人口の拡大に努めます。
- ・新たな観光客の獲得に向けて、旅行会社、交通会社等と連携し、温泉地、ゴルフ場などを活用した観光ルートの設定や市内観光地を周遊する観光タクシーなどの商品化づくりを支援していきます。

#### 平成22年度の取組実績

- ・ 「ビーチバレーin 御殿場」を平成22年8月8日に開催し、男子・女子・男女混合合わせて365チームが参加し、会場には参加者、観客を含め約5,000人が集まりました。
- ・ 「津花火大会」を平成22年7月31日に開催し、約15万人の観客がありました。
- ・ 「津まつり」を平成22年10月9日、10日に開催し、両日は安濃津よさこい、合併5周年記念事業などを実施し2日間で約39万人の入込客がありました。
- ・ 津花火大会、久居まつり等の各地域イベントや、近鉄名古屋駅、名古屋城まつり、平城遷都1300年記念会場等の市内外において、着ぐるみ「ゴーちゃん」やキャラバン隊により、PRキャラバン活動、誘客キャンペーンを実施しました。
- ・ 平成22年11月7日にイベント「江フェスタ」を開催し、大河ドラマ関連特別講演会を通じ、市民への「江」の周知と文化に対する関心を深めました。
- ・ 旅行情報誌へ「江」ゆかりの地である津市の観光情報の広告掲出を実施しました。
- ・ 「江」ゆかりの地を巡る周遊バスを企画し、乗車予約も常に満席の状況で運行することができました。
- ・ 本城山青少年公園については、「江」ゆかりの地である伊勢上野城跡地を歴史的な財産として、環境的側面を活かした市民の憩いの場となるよう、擬木柵・照明灯・案内板・ベンチ等修繕を行いました。
- ・ 緊急雇用創出事業を活用し、「江」ゆかりの地伊勢上野城跡地を訪れる観光客に対し、観光客への案内などを行う「おもてなし隊」を4名雇用しました。ドラマの影響を受け、多くの観光客が訪れるなか、城跡の清掃、案内板の設置、施設の修繕、資料

室の設営、資料類の説明等行うことにより、来客者へのおもてなしを実施し津市のPRに努めました。

- ・ 伊勢上野城跡を訪れる観光客に対する案内用として国道23号沿い等に案内看板を設置（10箇所）したほか、本城山青少年公園内に本丸、二の丸の説明用看板を設置（3箇所）しました。

#### 現状における課題

---

- ・ 「ビーチバレーin 御殿場」については、市外からの参加促進に向けた取組が必要となります。
- ・ 「津花火大会」については、開催に当たり協賛金のさらなる確保に向けた方策が必要となります。
- ・ 「津まつり」については、来年度の開催に際し交流人口を増やすための企画が必要となります。
- ・ 大河ドラマ「江」を契機とした観光振興については、協議会事業とPRキャラバン活動を継続して展開していく必要があります。

#### 今後の取組

---

- ・ 「津まつり」等については、今後も多くの来場者が得られるよう、工夫を重ねながら交流人口の増加に取り組んでいきます。
- ・ 大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」を契機とした観光振興については、継続したPRキャラバン活動を展開するとともに、「江」関連地や都市部のメディア訪問を実施し、パブリシティ効果の向上を図ります。また、「江」関連商品の開発への助言やマスメディアへの情報発信に取り組み、観光誘客を図っていきます。
- ・ 大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」に係るおもてなし隊については、来客者に対するおもてなしを実施し、津市及び河芸地域のPRに貢献するよう努めると同時に、NHK大河ドラマを契機に歴史ある公園の美化が保たれる機会となるよう、事業を継続して実施していきます。

## (2) 拠点の形成を通じた新たな交流の創出

(スポーツ文化振興部、政策財務部、都市計画部、商工観光部ほか)

### 前期基本計画における目標

- ・津なぎさまち及びその周辺については、県都の玄関口として、新たな交流と活力を創造する賑わいの創出を図るため、みなとまちづくりの推進に努めます。
- ・都市核の中心を担う津城跡（お城公園）及びその周辺地区については、藤堂高虎公入府400年を契機として、これを活用したまちづくりを進めるなど、多様な交流の拠点として、魅力的な都市空間の創造を図ります。
- ・久居駅東側周辺地区については、本市南部の玄関口としての駅前の利便性を活かし、民間活力の導入も視野に入れつつ、賑わい性を高めるための副次的な都市機能の整備を図ります。
- ・近畿自動車道伊勢線津インターチェンジ周辺地区においては、県都としての活性化を牽引し、本市の求心力をさらに高める観点から、中心市街地の活性化に寄与し、津なぎさまちを中心とするみなとまちづくりと連動した新都心軸の形成を図るため、本市の玄関口として圏域内外との交流を展開する新たな産業交流拠点機能の形成をめざします。
- ・本市における産業を牽引する拠点である中勢北部サイエンスシティ、ニューファクトリーひさいについては、広域的な産業連携を図りつつ、企業立地をさらに促進することにより、産業を通じた交流人口の創出を図ります。
- ・豊かな自然環境などを活かした、保養、レクリエーションの機能の拠点である、榊原温泉、青山高原、経ヶ峰、錫杖湖周辺、君ヶ野ダム周辺、御殿場海岸、香良洲海岸等については、周辺環境の整備や四季折々の景観が楽しめるイベントの開催などを通じて、多くの人々が訪れる拠点としての魅力の向上を図ります。

### 平成22年度の取組実績

- ・新都心軸の形成に向けて、関係機関との調整や市民等の意見を伺いながら、新都心軸連携計画等の策定を行います。計画策定後は、同計画に基づき、新都心軸の具体化に取り組んでいきます。
- ・久居駅東側周辺地区の整備については、平成22年5月に地元での説明会を開催したほか、7月から8月にかけてワークショップを開催し、市民の意見集約に努めました。
- ・中勢北部サイエンスシティ及びニューファクトリーひさい工業団地への企業誘致のため、企業訪問をはじめ、各種PR、情報発信及び収集などに積極的に取り組み、首都圏において、また関西圏の大阪、京都方面において誘致活動を強化し、平成22年度は2社の誘致に成功しました。

## 現状における課題

---

- ・ 新都心軸の各拠点の整備につきましては、土地利用上の問題や環境問題等の整理・検討の必要があります。
- ・ 久居駅東側周辺地区の整備については、地域住民から、民間事業者の活用の撤回をはじめとしたワークショップからの提言内容を最大限尊重した事業の実施を求める要望があり、要望に対する対応の検討が必要です。
- ・ 企業訪問、企業展等でのPR、情報発信及び収集などの誘致活動にスピーディーかつ積極的に取り組み、特に交通アクセスが容易になった京都方面への企業へのアプローチの方法やネットワークの開拓が必要となります。

## 今後の取組

---

- ・ 新都心軸の形成に向けて、関係機関との調整や市民等の意見を伺いながら、新都心軸連携計画等の策定を行います。計画策定後は、同計画に基づき、新都心軸の具体化に取り組んでいきます。
- ・ 久居駅東側周辺地区の整備については、地域からの要望も踏まえ、事業内容など慎重な検討を行いながら、取り組んでいきます。
- ・ 中勢北部サイエンスシティ及びニューファクトリーひさい工業団地への企業誘致の促進のため、積極的な誘致活動を展開していきます。特に中勢北部サイエンスシティについては、本年4月より国道23号中勢バイパス沿い産業区域の新規分譲を開始したため、製造業を中心とした誘致活動に取り組んでいきます。

## ⑤津らしさ実感プログラム

### 1 藤堂高虎公入府400年を契機とした文化のまちづくり

(スポーツ文化振興部、政策財務部、市民部、商工観光部、三重短期大学、建設部)

#### 前期基本計画における目標

- ・ 藤堂高虎公入府400年を契機として、藤堂高虎公にゆかりのある自治体との交流や、藤堂藩ゆかりの地への碑の設置など、藤堂高虎公の功績を広く地域内・外の人に知ってもらうための取組を継続的に進めるとともに、「まち歩き」との連携を図るなど、本市への誘客を図るための仕組みづくりに取り組みます。
- ・ 藤堂藩ゆかりの地であった千歳山については、歴史的な経過を踏まえ、文化的、環境的側面等を活かした市民の憩いの場となるようその保全と活用を図るとともに、市民の創作活動や体験を通じて身近に文化に触れることのできる場として検討を行い、施設の整備に取り組みます。
- ・ 大学や関係する地方自治体、団体などと連携し、本市を中心とする広域的なエリアを対象に、一体的な文化環境の醸成や、歴史文化ネットワークの形成をめざす仕組みづくりとして、地域学の構築に向けた取組を進めます。

#### 平成22年度の取組実績

- ・ 平成20年度の「藤堂高虎公入府400年事業」を受け、高虎公入府後の藤堂藩の功績やゆかりの地についての周知を図るために、津市内の藤堂藩ゆかりの地として、長野宿や高野井など、計7箇所にいしぶみを設置しました。
- ・ 「千歳山を考える会」において整備及び活用に関する最終意見を取りまとめていただくとともに、最終意見を平成23年2月4日に提出していただきました。
- ・ 平成22年11月21日に市民等を対象とした現地視察会を開催し、千歳山の整備に対する意見を頂きました。

#### 現状における課題

- ・ 藤堂藩ゆかりの地へのいしぶみ設置事業については、いしぶみの場所の選定及び設置に向けた調整が課題となります。
- ・ 「千歳山を考える会」からの最終意見書を踏まえ、千歳山の整備基本構想の具体の策定に取り組んでいきますが、この中で奈良県に保管されている建築部材を活用した川喜田半泥子の本宅復元に対して強い要望があり、調査・研究が必要となります。

#### 今後の取組

- ・ 藤堂藩ゆかりの地へのいしぶみの設置を継続して行うとともに、ボランティアガイドへの情報提供を含め、いしぶみそのものの情報発信を進めていきます。

- ・ 千歳山の整備に係る基本構想の策定を行うとともに、課題となる本宅の復元に係る調査・研究を実施していきます。また、具体的な管理・運営方法の検討と周辺環境の維持管理を進めていきます。

## 2 地域ブランドの確立

(商工観光部、農林水産部)

### 前期基本計画における目標

- ・国・県が行う支援策、専門家等を活用しながら、多様な自然環境に恵まれた地域資源等を活用した新商品の開発を促進するとともに、数多く有する観光資源との連携のもと、観光振興と一体となった地域ブランドの確立に向けた仕組みづくりに努めます。
- ・地場産業等とのマッチングに努め、地域と一体となった商品や付加価値の高い新製品の開発を促進しながら、本市のイメージの形成に資する地域ブランド戦略を推進します。
- ・農林水産物等の付加価値を高めるため、住民や関係者等と協働した地域特産物の認定、またグリーンツーリズムや物づくり体験など体験プログラムの創出に努めるとともに、特色のある物産品や地産地消の取り組みと連動した「特産品」、「郷土料理」の開発を支援していきます。
- ・旅行会社、交通会社等と連携し、温泉地、ゴルフ場などを活用した観光ルートの設定や市内観光地を周遊する観光タクシーなどの商品化づくりを支援していきます。

### 平成22年度の取組実績

- ・津スイーツ推進協議会設立等準備会を発足させ、和菓子や洋菓子の製造販売業者及び商業関係団体と協議し、具体的な事業計画等の検討を行いました。また試行的な事業として、「スイーツフェスタ」（主催：スイーツフェスタ実行委員会、津市）を平成23年3月26日、27日の両日に開催し、延べ1万人の来場がありました。
- ・平成22年10月1日から、「榊原温泉日帰り湯めぐりプラン」の名称で旅行商品を開発し、近鉄主要駅営業所で翌年3月31日まで販売したところ360件の利用があり、中京圏からの入込客数の増加に貢献しました。
- ・平成22年11月に「美杉森林セラピーコース」を巡る、日帰りバスエスコートツアーを企画造成し販売したところ、関西方面からの誘客につながりました。
- ・地域ブランドの確立を目的に、まず、「地域特産品づくり事業」として、イワシの有効活用による津ぎょうざの試作等の取組を支援しました。また、農林水産物等ブランド化推進協議会を4回開催（通算10回）し、協議を重ねた結果、協議会としてブランド化推進候補品目（13品目）の選定とブランド化に向けた品目別戦略構想（案）を策定しました。このほか、農林水産まつり（平成22年11月3日）、津産津消・食の彩典（平成23年1月23日）及びおさかなまつり IN 美杉（平成22年12月18日）のイベントを開催し、消費者と生産者の交流を通じ、地元産農林水産物をPRしました。

## 現状における課題

---

- ・ 「（仮称）津スイーツ推進協議会」を設立するため、会員の拡大を図るとともに、行政として支援の在り方、役割の整理を行い、観光事業とのタイアップ等により津市のPRにつなげていく必要があります。
- ・ 榊原温泉については、宿泊を伴ったプランを作成し観光客の増加を図るとともに、美杉地区へのエスコートツアーの回数の増加を図る必要があります。また、それぞれのツアーについては、見込んでいた入込客数には及ばなかったことから、広報の強化が課題となります。
- ・ 「地域特産品づくり事業」については、農業者等に対する事業のなお一層の周知が必要となります。
- ・ 「農林水産物等ブランド化推進協議会」については、推進候補品目のブランド化に向けた具体的な推進方策とその実施が課題となります。
- ・ 「津産津消・食の彩典」については、「食彩フェスタ in 津」から移行して1年目であるため、本年度の成果・課題を踏まえた翌年度の内容検討が必要となります。

## 今後の取組

---

- ・ 今後においては、スイーツをテーマとした協議会の設立をはじめ、津市の魅力の一つとして広く発信していきます。
- ・ 榊原温泉の魅力を伝えるため、伊勢神宮との関わりに焦点をあてた企画商品を作成し、都心部の複数の旅行業者での採用を働きかけていきます。また、夏、秋と美杉地区の良さを満喫できる季節に合わせた商品開発を行い、関西方面への旅行業者に販売セールスを行います。
- ・ 「地域ブランドの確立」については、並行して開催し、検討してきた津産津消推進懇談会と統合した組織において、新たな栽培技術や品質の向上などの調査、研究を支援するとともに、推進候補品目のブランド化を進め、高付加価値化と経営の安定を図ることにより農林水産業の振興を図っていきます。また、農林水産物の生産者と消費者が直接交流できる機会を設け、地元農林水産物に対する認識の向上を図ることにより、農林水産物の生産振興及び地産地消、食育の推進を図っていきます。

### 3 シティプロモーションの仕組みづくり

(商工観光部、農林水産部)

#### 前期基本計画における目標

- ・ 県都としての都市機能や交通結節点としての優位性を活かし全国的・広域的なコンベンションの誘致、また地域資源を活かしたフィルムコミッションなどを積極的に推進します。
- ・ 全国的に著名な文化人等の協力を得ながら、新聞、雑誌、テレビなどのメディアを効果的に活用したPRに取り組みます。
- ・ 既知の観光資源のみならず、本市発祥の名産品や食文化など、本市の特色的な観光資源を活用しつつ、インターネットやイベント等を通じた積極的なPR活動を行うとともに、行政、民間企業を含めた市民一人ひとりが全国に情報発信できる取組を進めます。
- ・ 東京事務所などの機能を活かした広域的な観光情報の発信を行うとともに、伊勢市など他都市と連携をした観光キャンペーンなどの事業を展開し、観光地としての知名度向上に努めます。農林水産品の産直所の設置などにより情報発信・PRの強化に努め、販路拡大を図ります。また、国道23号中勢バイパス津(河芸)工区に予定されている道の駅の整備促進にあわせて、産直所や情報発信機能等の整備を進めます。

#### 平成22年度の取組実績

- ・ 津の街音楽祭補助事業については、昨年の取組を継承し、9月に参加募集、12月に1次審査(20組選出)及び2次審査(一般投票5組、審査員枠3組を選出)、2月にファイナルステージ(白山総合文化センター)を実施しました。昨年度に引き続きインターネットでの投票や当日のライブをインターネットで中継するなど、全国に情報を発信しました。その結果、ホームページ等へのアクセス数は約26,300件(3月末)、インターネット投票は3,473件、ライブ中継へのアクセスは221件(前年99件)、コンテストへの応募は76組(前年54組)といずれも昨年を上回る実績となりました。また、投票と同時にアンケートを実施した結果、今後の事業展開や観光振興に対して1,316件(昨年とほぼ同数)の貴重な意見が得られました。
- ・ 民間が行うシティプロモーション活動に対して助成を行う「民間シティプロモーション支援事業」として、平成22年6月に札幌で開催されたYOSAKOIソーラン祭りへ参加した安濃津よさこい組織委員会や、7月東京銀座三越百貨店で開催された全国うなぎ名店に出店した津市げんき大学など、6件の支援事業を実施しました。東京、札幌市等の大都市圏でのプロモーション活動を展開し、津市の魅力である伝統文化(安濃津よさこい、唐人おどり)、食文化(うなぎ料理、津ぎょうざ)を発信できました。また、海外(中華民国)でのプロモーション活動も展開でき、海外誘客に向けた情報発信も実施できました。
- ・ コンベンションを開催する団体等に支援を行う「コンベンション開催支援事業」については、平成22年度は三重国際女子オープンテニス2010実行委員会や三重県

看護協会など、4件の事業に対し支援を実施することにより1,275人の宿泊客が得られ、津市内の観光関連施設において経済効果を高めました。

- ・ 映画等の撮影の誘致活動を通じ本市のプロモーションを展開する「フィルムコミッション事業」については、県内及び東海地区のフィルムコミッション主催の講演会や研修会へ参加しました。
- ・ 河芸道の駅の整備推進については、道の駅の全体施設配置、導入機能及び施設規模等について検討し、道の駅基本計画を策定しました。また、農林水産業団体と商工団体による運営準備会を開催し、運営主体など推進体制の確立に向け協議を行いました。

#### 現状における課題

---

- ・ 津の街音楽祭補助事業については、5箇年の継続を念頭に実施していますが、これまでの経過、実績を活かす自主開催等の今後の展開について、検討が必要となります。
- ・ 「民間シティプロモーション支援事業」については、シティプロモーション活動として、参加するイベントの規模に応じた補助の有り方を検討し、津市の魅力発信を高め、誘客効果が得られる仕組みを展開する必要があります。
- ・ 「フィルムコミッション事業」については、ロケ候補地のデータベース化を行うとともに、実際に映画ロケを誘致することが課題となります。
- ・ 河芸道の駅の整備推進については、道の駅の管理運営主体の決定及び道の駅の施設配置、規模等の国（三重河川国道事務所）との協議、市買収予定地（地域振興施設用地）と国有地との交換、農林水産物直売に係る体制整備が課題となります。

#### 今後の取組

---

- ・ 引き続き津の街音楽祭を開催するに当たり、企画運営方法等を精査しつつ、音楽を通じた全国発信の母体となるよう実施していきます。
- ・ 「民間シティプロモーション支援事業」については、参加するイベントの規模に応じた支援を実施し、さらなる本市の全国PR及び誘客に取り組んでいきます。
- ・ 「コンベンション開催支援事業」については、継続した事業を展開するとともに、大会参加者へ津市の観光資源の魅力を周知していきます。
- ・ 「フィルムコミッション事業」については、津フィルムコミッション「ロケッ津」と連携し、新たなロケ地の発掘と積極的なロケ誘致活動を通じた本市のプロモーション活動を展開し、多様な資源を有する津市の魅力を継続して発信していきます。
- ・ 河芸道の駅の整備推進については、道の駅整備に係る課題を整理し、中勢バイパスの整備スケジュールと整合した道の駅整備計画により、計画的な整備を推進します。

### 3 地域かがやきプログラム

#### ①東部エリア～キラリと輝く人づくり・まちづくり～

##### 1 知の拠点としての情報発信

###### (1) 研究情報ハブの形成

(政策財務部、商工観光部ほか)

###### 前期基本計画における目標

- ・ 大学等研究機関や企業との連携のもと、産業振興センター（仮称）において、メカトロニクスやバイオをキーワードとした先端的研究やそれらの融合領域に関わるナレッジ・ハブ（知識中継点）を整備していくことで、特色ある「知」の情報拠点となる研究情報ハブの形成をめざします。

###### (2) 文化情報ハブの形成

(政策財務部、スポーツ文化振興部ほか)

###### 前期基本計画における目標

- ・ 市民や関係機関との連携のもと、「県都」としての文化情報の蓄積を行政情報システムにより整備していくことで、洗練された文化情報ハブの形成をめざします。

###### 平成22年度の取組実績

- ・ 三重県産業支援センター主催の製造管理者育成講座、組込みソフトウェア及びメカトロ技術者育成講座をあのつピアで開催しました。また、小規模勉強会として、ものづくり経営勉強会を3回、つ食のマーケティング勉強会を1回開催し産産連携の取り組みを行いました。

###### 現状と課題

- ・ 広範で充実した産学・産産連携を継続して実施し、大学等研究機関、関係機関、企業への情報案内、企業との情報交換が進められる場としての産学官連携へ展開していくことが必要です。

###### 今後の取組

- ・ 関係機関の人材育成事業に協力するとともに、産学・産産連携による勉強会等の開催を進めながら、今後は、課題であるより広範な産学連携の取組を大学等の教育機関と協力して実施していきます。

### (3) 国内・国際会議の開催

(政策財務部、商工観光部ほか)

#### 前期基本計画における目標

- ・メカトロニクスやバイオをキーワードとして、大学等研究機関や企業との連携のもと、三重県総合文化センター等を会場とし、これら先端的研究の国内・国際会議の開催をめざします。

#### 平成22年度の取組実績

- ・小規模勉強会を開催し産産連携の推進を図る一方、三重大学イノベーション学科が研究する三重大学スマートコミュニティ構想の勉強会にも協力し、産学官連携の推進に努めました。

#### 現状と課題

- ・現状では、産学・産産連携の小規模な勉強会であり、規模の大きな会議には至っていませんが、今後は研究機関等との連携によるセミナーへ発展させていけるような取組を行っていく必要があります。

#### 今後の取組

- ・産学・産産連携による勉強会等を継続していき、関連する分野のセミナー等へ発展させていくことができるよう研究していきます。

## (4) 地域ブランドの情報発信

(政策財務部、農林水産部、商工観光部、河芸総合支所ほか)

### 前期基本計画における目標

- ・本市のイメージ形成に資する特産品や農林水産物などの地域ブランドをホームページや携帯電話などの情報媒体を積極的に活用し、一体的かつ総合的な情報発信を図ります。
- ・国道23号中勢バイパス津(河芸)工区に予定されている道の駅の整備促進にあわせて、地域情報発信拠点及び農林水産物等の流通促進施設として、「道の駅」拠点づくりを進めます。

### 平成22年度の実績

- ・ 地域ブランドの情報を発信し、販売できるインターネットサイト「津モール」を開設し、商品を安定供給できる生産者の参加を得て、地域ブランドの情報を発信しました。
- ・ 河芸地域の農産物等を利用し、新たな特産物「河芸ブランド」の開発を行い、全国へ津市を発信していく取組を行いました。平成22年度は、三重短期大学の助言、協力を基に、味覚、栄養、風味が保存できる食物のレシピを研究しました。

### 現状における課題

- ・ 安定した販売量を確保できる「地域ブランド」をより多く発掘する必要があるとともに、「津モール」そのものの認知度が低い状態であり、広報活動を継続して取り組む必要があります。
- ・ 「河芸ブランド」については、3年後に開業予定の「道の駅」のオープンに備えて、特産品の開発が課題となります。

### 今後の取組

- ・ 地域ブランドを発掘するために、生産者へ足を運び一つでも多くの商品を出店していただく取組を進めます。また、インターネットサイト「津モール」において、津のブログポータルサイト「津のこと」と連携し商品の紹介を強化するとともに、商品購入者のレビューを設けるなど、消費者の目線でのネットショップの構築を進めます。
- ・ 「河芸ブランド」については、将来の「道の駅」オープンに備え、土産物として販売できるもの、オリジナル定食としてレストランで販売できるものとなるよう研究を継続していきます。

## (5) 市民参加による旬の地域情報発信

(政策財務部ほか)

### 前期基本計画における目標

- ・ 四季折々の景観など、旬の地域情報を情報発信するため、市民地域特派員（仮称）を設置するなど、市民参加型情報発信の仕組みづくりを推進します。

### 平成22年度の取組実績

- ・ 市民特派員がパソコンを活用して地域の情報を書き込み、地域の情報をタイムリーに発信することができるポータルサイト「津のこと」を運営するとともに、市民特派員候補者の育成やブログに興味を持っていただくことを目的とした講習会や交流会を開催しました。
- ・ 市民特派員については、平成23年3月31日現在で、268名の登録を得ることができました。

### 現状における課題

- ・ 市民特派員については、登録目標である300名に向け、継続した啓発に努める必要があります。また、インターネットサイト「津モール」との連携した取組を構築する必要があります。

### 今後の取組

- ・ 津市の情報を幅広く発信していくため、市民特派員のさらなる登録を推進するとともに、地域ブランドの情報を発信する「津モール」と連携した取組を進めます。

## 2 地域を担う人づくり

### (1) 多様な人材の育成

(教育委員会、教委久居事務所ほか)

#### 前期基本計画における目標

- ・ 公民館を中心とした社会教育施設や、津センターパレス、河芸庁舎、ポルタひさい、サンデルタ香良洲などの公共施設を活用し、市内及び近隣の大学と連携した生涯学習講座や、各分野において専門的な知識を有する市民による講座等の開設により、地域社会における問題解決や支え合いの仕組みを担う多様な人材の育成を図るとともに、施設の有効活用を図ります。

#### 平成22年度の取組実績

- ・ 大学等の高等教育機関と連携し専門性のある講座を行う「あのつアカデミー」において、国際交流・郷土の歴史・家庭教育など、社会の変化や地域のニーズに合わせ17回の講座を開催し、延べ395名の参加がありました。
- ・ 平成21年度から実施している「雑学人づくり塾」において、久居地域の各地区公民館を拠点として地域の歴史や観光資源、各種分野の講座を開催し、知識の習得を進めました。平成22年度は、7地区公民館での講座を70回、全体研修会を2回開催し、受講生402人の参加がありました。
- ・ 地域リーダーの養成を目的として実施している「地域リーダー養成塾」については、平成21年度から実施してきた基礎入門編の講義に加え、平成22年度は、9月から応用実践編の講義を全10回開催し、地域活動のリーダーとしてのスキルアップや、能力を発揮するために必要な技術等の習得をめざしました。
- ・ 香良洲地域の小学生を対象に地域の特産品である梨の栽培について体験学習を実施し、受粉、摘果、袋かけ、収穫、除草等各作業について体験しました。4月から8月にかけて3年生と5年生を主に266名が参加しました。

#### 現状における課題

- ・ 「あのつアカデミー」については、受講生を増やすため、周知方法の改善及び講座の充実を図るとともに、受講生が継続して受講でき、受講生の人材活用につながる体制づくりが必要となります。
- ・ 「雑学人づくり塾」については、人材育成や人材活用につながる講座内容の工夫が必要となります。
- ・ 「地域リーダー養成塾」については、平成22年度をもって終了しましたが、今後は、より広い地域が連携し多くの市民が参加するために、市全体としての取組が必要となります。

- ・ 香良洲地域における梨栽培の体験学習については、作業期間が限定しており、天候等による作業内容の変更や指導員の確保について学校行事等との調整が必要となります。

#### 今後の取組

---

- ・ 「あのつアカデミー」については、政策・経営・家庭教育など地域のニーズに合わせた講座を実施し、人材育成を行っていきます。
- ・ 「雑学人づくり塾」については、平成22年度の事業内容を踏まえ、人材育成と人材活用につながる企画を行っていきます。
- ・ 梨栽培の体験学習については、香良洲地域の特産品生産の過程を学習することにより、後継者の育成を図ります。

## (2) スポーツ・レクリエーション等を通じた生きがいづくり

(スポーツ文化振興部、建設部、河芸総合支所、香良洲総合支所ほか)

### 前期基本計画における目標

- ・市民の誰もが気軽に参加できるスポーツ・レクリエーションイベントの開催など、市民の参加及び交流の場を提供することで、スポーツやレクリエーションを通じた心豊かで生きがいのある暮らしづくりを応援します。
- ・河芸町民の森公園内及びサンデルタ香良洲周辺における施設の整備・充実に取り組むとともに、市民が気軽に利用できるよう市民ニーズに応じた各種スポーツ・レクリエーション活動の促進を図ります。

### 平成22年度の取組実績

- ・久居地域において、交流促進の観点から「サマーフェスティンひさい」、「久居まつり」を実施しました。「サマーフェスティンひさい」には約60,000人、「久居まつり」には約39,000人が来場し、イベントを通じて心豊かで生きがいのある暮らしづくりに寄与しました。
- ・河芸地域体育祭を平成22年10月17日に開催し、当日は約2,000人の参加がありました。
- ・河芸地域において、ウォーキング大会を平成22年5月30日に150人の参加、ソフトバレーボール大会を平成22年11月7日に250人の参加、インディアカ大会を平成23年2月13日に70人の参加でそれぞれ開催し、地域住民同士の交流とスポーツへの参加意識の高揚を図ることができました。
- ・河芸地域において、マレットゴルフ教室&大会を平成22年11月28日に開催し、90人(対前年比23%増)の参加があり、競技人口の拡大に貢献することができました。
- ・河芸地域において、バレーボール教室を平成22年11月27日に開催し、小中学生約130人が参加し、基礎技術の向上や地域内の親睦を図ることができました。
- ・香良洲地域において、パターゴルフ大会を平成22年7月4日から7日、平成22年9月25日から27日、平成23年3月13日の3回開催し、延べ180人が参加しました。地域にあるパターゴルフ場を利用し、生涯スポーツの振興、健康づくりに貢献することができました。
- ・香良洲地域体育祭を平成22年10月17日、香良洲小学校運動場で開催しました。地域主導のイベントとして行っており、約900人の参加があり、地域の生涯スポーツの振興及び住民相互の親睦を深めることができました。

## 現状における課題

---

- ・ 「久居まつり」については、商店街の賑わい創出を目的としており、地元だけでなく久居駅からも来場者が誘導できるよう工夫する必要があります。
- ・ 河芸地域における小中学生対象のスポーツ教室については、毎年種目を変えて行っていますが、スポーツクラブに属さない子どもの参加にも配慮するなどして取り組んでいく必要があります。
- ・ 香良洲地域におけるパターゴルフ大会については、参加者数の伸びが少ないため、増加に向けて様々な周知やPR方法を検討しています。

## 今後の取組

---

- ・ 引き続き、誰もが気軽に参加しやすい各種スポーツ・レクリエーションを実施し、地域住民の健康づくりを推進するとともに、心豊かで生きがいのある暮らしづくりを図ります。
- ・ 「サマーフェスティンひさい」及び「久居まつり」については、久居駅周辺で開催する賑わい創出事業として今後も継続していきます。
- ・ マレットゴルフの普及と競技人口の増加に伴い、河芸町民の森公園内に27ホールのマレットゴルフコースの増設整備を進め、公園整備においては、有効活用できるように地域の意見を反映しながら進めるとともに、管理の在り方についても検討を進めます。

### (3) 多文化共生の地域づくり

(教育委員会、市民部、教委河芸事務所)

#### 前期基本計画における目標

- ・国際化が進むなか、本市の人口の約3.1%を占める外国籍市民との交流を推進します。
- ・文化や習慣等の異なる人たちが、互いの違いを認め合い、共に共生できる地域社会を形成していくため、相互交流イベントなどを通じて、国際理解のある地域づくりを進めます。

#### 平成22年度の取組実績

- ・外国人児童及び保護者への支援事業については、河芸地域において就学前後・不就学の外国籍児童及び保護者が学校生活になじめるような取組として、平成22年度は外国人支援コーディネーター活動（ポルトガル語・スペイン語）を72回、日本語指導補助活動（日本語）を36回実施しました。
- ・指導者の育成・研修事業については、河芸地域において、平成23年2月17日に、外国につながる子どもたちの指導・相談サポート等について講演会を開催しました。
- ・地域住民との交流事業については、河芸地域において、平成22年6月20日に「千里フェスタ」、平成22年11月20日に「わのつどい」、平成23年2月2日に「ちさトーク」を千里ヶ丘小学校で開催しました。

#### 現状における課題

- ・外国人児童及び保護者への支援事業については、外国人支援活動コーディネーター活動として、スペイン語、ポルトガル語及び日本語の指導補助活動を継続的に実施していますが、特に指導において教本を導入して充実したものとする必要があります。

#### 今後の取組

- ・多文化共生の地域づくりモデルとして、引き続き河芸地域において文化や慣習等の異なる外国人の方々と地域住民の共生に向けた取組を進めます。

### 3 地域連携による交流の推進

#### (1) 鉄道で巡るおもてなしルートの設定

(久居総合支所ほか)

##### 前期基本計画における目標

- ・ 鉄道網の持つ魅力を活かし、津駅、久居駅等を基点に、四季折々の景観を求めての散策や歴史文化を探訪できるルートの設定、また、ちょっと一休みできる味どころなど「おもてなし旅情報」の発信で、地域再発見・交流に努めます。

##### 平成22年度の実績

- ・ 久居駅等を基点とした「おもてなしルート」の設定については、地域のボランティアガイド会「久居城下案内人の会」と話し合い、既存資料とは視点を変えた新たな資料づくりや来訪者へのおもてなしの充実のためにガイド活動強化に向けて検討を行いました。

##### 現状における課題

- ・ 久居駅を基点として散策できるルートづくりやおもてなしの一環としてガイド活動の強化、PRを図る必要があります。

##### 今後の取組

- ・ 久居駅を基点として散策できる「おもてなしルート」を設定し、来訪者へ提案するとともにガイド活動を通じておもてなしを行うことで、地域の魅力の再発見と交流の推進をめざしていきます。

## (2) 伝統文化の伝承と賑わいの創造

(教育委員会、教委香良洲事務所、教委河芸事務所)

### 前期基本計画における目標

- ・古くから各地域に受け継がれ、県の無形民俗文化財に指定されている「唐人踊り」や「香良洲町の宮踊り」など長い歴史と伝統に培われた伝統行事を活かした賑わいの空間の創出と、地域を支える人づくりを進めます。

### 平成22年度の取組実績

- ・「宮踊り」は、香良洲地域において豊漁豊作を祈願する奉納踊りで約350年前から行われており、踊りの歌本は歴史を素材にした郷土色豊かなものです。平成22年は、8月15日から16日にかけて行われ、天候にも恵まれ、延べ5,000人の人出があり、市外・県外からも多数の人が訪れました。
- ・香良洲地域における「獅子舞」については、平成22年10月10日に津まつりに出演したほか、平成23年1月1日及2日には香良洲町内における厄払い行事に出演しました。

### 現状における課題

- ・「宮踊り」及び「獅子舞」については、地区ごとの規模や取組等により差が表れてきています。また、地区の高齢化も含め、後継者づくりについて課題があります。

### 今後の取組

- ・「宮踊り」及び「獅子舞」については、今後も後継者の育成を進め、伝統文化の継承、観光の振興を通して香良洲地域の活気あふれるまちづくりにつなげていきます。

### (3) 海を活かした交流の推進

(環境部、商工観光部、農林水産部、河芸総合支所、香良洲総合支所ほか)

#### 前期基本計画における目標

- ・河芸地域から香良洲地域まで連なる市域で唯一の「海」を活かし、地域が連携した環境保全活動などによる安らぎを与える空間づくりに努めます。
- ・潮干狩り、たて干し、地引網など観光漁業を企画推進し、海の魅力を提供します。

#### 平成22年度の実績

- ・香良洲地域において平成22年5月30日に行われた「ふれあいのかおり」では、海岸清掃、潮干狩り、ステージイベント、特産品コーナーなどを展開した結果、地域の住民に加え市内外から、約3,500人の参加があり、地域の特性を活かした催し物や体験等を通じ、人と人、人と自然のふれあいを図ることができました。

#### 現状における課題

- ・香良洲地域の特性をより多くの人に感じてもらえるように、「ふれあいのかおり」を自然とのふれあいを通じたレジャーとしてPRしていくことが課題となります。
- ・これまでの取組により、参加者が定着しているものの、参加者の固定化が懸念されます。

#### 今後の取組

- ・今後も、より多くの参加者に海の魅力をPRできるよう、情報発信に努めながら事業を推進していきます。

## (4) ユニバーサルデザインのモデル地域づくり

(政策財務部、香良洲総合支所ほか)

### 前期基本計画における目標

- ・ユニバーサルデザインの取組が活発である香良洲地域において、サンデルタ香良洲を拠点に、市民との協働のもと、ユニバーサルデザインマップの作成や、小中学校、企業などを対象にした研修講座等を開催します。
- ・市民及び地域の自主的な活動団体等との連携のもと、ユニバーサルデザイン推進のモデル地区としての取組を進めるとともに、他の地域への取組の浸透及び自主的な活動団体等とのネットワーク構築を支援します。

### 平成22年度の取組実績

- ・香良洲地域において、ユニバーサルデザインのモデル地域づくりとして啓発事業を推進し、講演会の実施や、社会福祉協議会等が実施する事業への参加協力、ボランティア連絡協議会や他団体が行う事業との協働など、広く市民への普及啓発を図りました。
- ・サンデルタ香良洲館内に、ユニバーサルデザインの考え方を踏まえた案内看板を設置したほか、備品の購入を行いました。

### 現状における課題

- ・市民へのユニバーサルデザインの啓発とともに、いかにユニバーサルデザインについて学ぶ機会を提供し、活動を担う人材をどのように育成していくかが課題となります。

### 今後の取組

- ・今後も、地域住民、団体との協働で、ユニバーサルデザインの普及啓発を進め、住民の意識高揚と実践につながる事業の推進を図るとともに、他地域への取組の浸透を図ります。

## (5) 歴史文化の賑わいの創出

(スポーツ文化振興部、教育委員会、商工観光部ほか)

### 前期基本計画における目標

- ・ 一身田寺内町の環濠や町並みなど歴史的景観をはじめ、地域の文化を感じさせる景観や風情などを発掘・活用など、市民がまちづくりに参加できる体制づくりを進めることで、賑わいや訪れる人への思いやり、もてなしを創出します。

### 平成22年度の取組実績

- ・ 地域住民で構成された実行委員会による企画・運営のもと「一身田寺内町まつり」を開催し、また、併せて歴史街道ウォークを実施し、イベントを通して歴史的な町並み文化財など広く市内外の人々に紹介しました。
- ・ 河芸地域で平成22年11月28日に開催された「江の郷・秋まつり」において、NHK大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」の放映に合わせて、3姉妹コンテスト、地域物産の販売、ふるまい等を行いました。また観光で訪れる人をもてなすイベントを実施したところ、本城山青少年公園展望台資料室への来場者が平成23年3月末現在14,028人となりました。

### 現状における課題

- ・ 「一身田寺内町まつり」を含め、各地域により多くの観光客を呼び込むための誘客方法について検討する必要があります。
- ・ 「江の郷・秋まつり」については、大河ドラマの終了後にどのような形で地域の情報を発信するかが課題となります。

### 今後の取組

- ・ 「一身田寺内町まつり」については、一身田寺内町に残る多くの文化遺産や歴史的町並みについての情報発信、伝統芸能の披露や発表、絵画・写真展など文化芸術活動の実施、宝物展示などを実施することにより、誘客を図っていきます。
- ・ 「江の郷・秋まつり」については、大河ドラマの終了に伴うフィナーレを飾るための祭典とするため、より多くの人々が感動できる計画を行うとともに、河芸地域の特色を活かしたイベントとします。

## ②北部エリア～都市や自然と共存するふれあいの里づくり～

### 1 スポーツ・レクリエーション活動の促進

#### (1) スポーツ・レクリエーション拠点の形成

(スポーツ文化振興部、安濃総合支所)

##### 前期基本計画における目標

- ・安濃中央総合公園及びその周辺において、より大規模なスポーツ大会が開催できるよう、スポーツ施設の整備・充実に取り組むとともに、スポーツ・レクリエーションを通じた交流の拡大を図ることで市民のスポーツ活動を促進し、市内のスポーツ人口を増やします。
- ・芝生広場周辺における花いっぱい運動等の取り組みを通じて、公園周辺の環境整備を図り、市民の憩いの場を創出します。

##### 平成22年度の取組実績

- ・美里グラウンド、美里体育館などのスポーツ施設を活用して、平成22年6月から平成23年3月にわたり「スポレクチャレンジ大会（美里地域）」を開催しました。ソフトボール・ゲートボール大会、バトミントン大会、グラウンドゴルフ大会等を開催し、延べ524人の参加を得ました。
- ・あのうスポーツクラブと連携し、バスケットボール交流大会の他、各種スポーツ大会を開催し、延べ150名の参加を得ることにより地域住民が身近にスポーツを楽しむ環境づくりに取り組みました。
- ・安濃中央総合公園周辺の環境整備及び市民の憩いの場を創出するための取組「花いっぱい運動」として、関係機関の協力を得て、サルビア、マリーゴールド、にちにち草、パンジー等を植栽したプランターなどの設置を行いました。
- ・芸濃地域において、平成22年8月から平成23年3月まで「スポレクチャレンジ大会（芸濃地域）」を開催しました。軟式野球、ボウリング、ゲートボール等8種目から9種目へと、種目数を増やし約430人の参加を得ました。
- ・安濃中央総合公園内体育館を活用して「スポレクチャレンジ大会（安濃地域）」を平成23年3月19日に39人が参加して実施しました。当日はソフトバレーボール大会やニュースポーツ（クロリティー、カローリング等）の種目やヒップホップダンス、キッズピクス教室の演技発表などが行われ、参加者の健康づくり及び交流を図ることができました。
- ・安濃中央総合公園内多目的グラウンドにおいて、「安濃体育祭」を開催しました。当日は60メートル走、大縄跳び、安濃よさこい、紅白玉入れなど、子どもからお年寄りまで年齢を問わず参加できる競技を行い、約2,000人の参加を得ました。

## 現状における課題

---

- ・ あのうスポーツクラブによるスポーツ大会においては、いかに参加者を増やすかが課題となります。
- ・ 「スポレクチャレンジ大会（安濃地域）」については、参加者が少なかったことから、開催時期や種目等について検討が必要となります。
- ・ 「安濃体育祭」については、午前と午後の参加者に大きな開きがあることから、競技内容を検討するなどの工夫が必要と考えられます。

## 今後の取組

---

- ・ スポレク事業については芸濃・美里・安濃地域で実施されており、北部エリア内での連携等により、より高い事業効果が得られるよう事業を進めていきます。
- ・ 今後も、あのうスポーツクラブ等市民や関係機関との連携のもと、市民に親しまれるスポーツ・レクリエーションの環境づくりを推進します。
- ・ 「安濃体育祭」については、地域住民の健康づくりと地域活動の活性化に欠かせない事業であることから、地域住民が多く参加できるよう競技内容についての検討を図りながら、継続して事業を実施していきます。

## (2) 自然・歴史散策コースの整備

(芸濃総合支所、美里総合支所ほか)

### 前期基本計画における目標

- ・ 錫杖湖周辺の自然や石山観音、長野城跡、伊勢別街道等の歴史資源を活かしウォーキングコースの整備や構築を進め、健康増進や市民間交流を目的としたウォーキングイベント等の開催などを通じて、レクリエーション活動の促進を図ります。

### 平成22年度の実績

- ・ 石山観音公園（芸濃地域）における散策コースの整備の一環として白彼岸花球根150球の植栽を行うとともに、石山観音公園の案内パンフレットを20,000部作成し、観光資源としての整備とPRに努めました。
- ・ 美里地域の長野氏城跡周辺においてウォーキングコースを設定し、丸木橋3箇所、案内看板2箇所の設置などコース全体の整備を行いました。

### 現状における課題

- ・ 石山観音公園のPRのため、パンフレットの効果的、継続的な提供が課題となります。
- ・ 美里地域のウォーキングコースについては、より多くの人に来場していただくため、既存コースの見直しと新規コースの設定が課題となります。

### 今後の取組

- ・ 観光ボランティア「芸濃ふるさとガイド会」が発足したことから、芸濃地域の観光資源に関する新規パンフレットを作成し、地域の情報をより効果的に提供ができるよう、努めていきます。
- ・ 美里地域のウォーキングコースについては、自治会、ボランティアガイド会、各種団体と連携しながら、既存コースの見直し及び新規コースの設定について調査検討を行っていきます。
- ・ 芸濃・美里・安濃地域のガイド会が連携し、北部エリアをつなぐ、歴史散策コース等の設定を検討していきます。

## 2 地域産業振興の拠点づくり

### (1) 新たな観光交流の創出

(芸濃総合支所、美里総合支所ほか)

#### 前期基本計画における目標

- ・ 地産地消施設である美里フラワービレッジの機能拡充を支援し、イベントや芋掘り、山菜取り等の農業体験ツアー等との連携、特産品レストランの開設、来訪客への観光情報の提供などを通じて、集客の拡大や地元農産物の販売を促進します。
- ・ 地域が主体となって観光モデルコースを創設するなど、新たな観光交流の創出に取り組みます。

#### 平成22年度の取組実績

- ・ 北部エリア（芸濃、美里、安濃）の観光資源について紹介した「津市北部エリア・見におい！観光モデルコース」パンフレットを作成し、配布するとともに、その内容を、ホームページに掲載しました。
- ・ 芸濃地域において、「Geino X'mas 2010」を平成22年12月19日から12月25日に開催しました。実行委員会の企画運営によるイルミネーションの点灯や各種催事が行われ、約6,000人の来場を得たほか、地域コミュニティ雑誌にも掲載されるなど、地域の情報発信と活性化に寄与することができました。
- ・ 美里地域において「美里夏まつり2010」を平成22年7月24日に開催しました。当日は幼稚園児のダンス、小学生によるよさこい、美里龍神太鼓、美里総おどり（盆踊り）、ものまねショー、花火大会、抽選会が行われ、約2,200人が来場しました。
- ・ 地産地消施設である美里フラワービレッジにおける地域住民や来訪者の交流を支援するため、同施設が開催するイベントへの助言と、来訪者への観光情報の提供を行いました。
- ・ 美里地域の特産品である農産加工品の販売促進を図る取組として、美里農産物加工組合による加工品開発への支援を行いました。平成22年度は美里在来豆を使用した美里味噌の商品化、タケノコ水煮パッケージの改良、梅ジャムの新パッケージの開発を行い、特産品の普及を図りました。
- ・ 安濃地域において「あのう 光れ！しかけ花火大会」を開催し、地域住民やふるさとへの帰省者、市内他地域など約4,500人が参加し、交流の場を提供することができました。

#### 現状における課題

- ・ 「美里夏まつり」については、多様なアイデアで事業を企画していくために、担い手（人材）の確保が課題となります。

- ・ 美里農産物加工組合に対する支援については、市場調査、販路の開拓、商品PRなどマーケティングが課題となります。
- ・ 「あのう 光れ！しかけ花火大会」については、現在の参加団体に加えて、新規参加団体の充実を図るための検討が必要となります。

#### 今後の取組

---

- ・ 「Geino X'mas 2010」については、市民組織で自主的な取組が行われており、今後とも芸濃地域を代表するイベントとなるよう活動を支援していきます。
- ・ 「美里夏まつり」については、今後とも美里の夏の風物詩として市民参加によるまつりを実施し、地域の観光振興と市民交流の促進に取り組んでいきます。
- ・ 美里フラワービレッジにおいては、地産地消施設における地元農産物の販売を支援し、イベントや芋掘り、山菜取り等の農業体験ツアー等との連携、来訪客への観光情報の提供を通じて、この地域への集客の拡大を促進します。
- ・ 美里地域における特産品のブランド化のため、農産加工品の販売促進を支援していきます。
- ・ 「あのう 光れ！しかけ花火大会」については、地域外交流のきっかけともなっており、今後とも地域の交流と連帯感の醸成を図りながら継続して実施していきます。

### 3 自然と親しむ環境づくり

#### (1) 経ヶ峰の自然がはぐくむ交流と健康づくり

(安濃総合支所)

##### 前期基本計画における目標

- ・ 地域の財産である経ヶ峰の豊かな自然や周辺の史跡を活かし、ハイキングや森林浴などを通じて市民の交流と健康増進を図るとともに、経ヶ峰を通して森林保全に対する市民意識の醸成を促進します。
- ・ ハイキングに歴史的資源や温泉（安濃交流会館内）を組み合わせ、新たなハイキングコースを設定することで、さらなる市民の交流と憩いの場としての魅力の向上を図ります。

##### 平成22年度の取組実績

- ・ 参加者の健康づくりと交流を目的に平成20年度から「経ヶ峰ハイキング」を実施しており、平成22年度は10月2日に、参加者186人、スタッフ100人で実施しました。当日は植林や俳句の会、ぜんざいのふるまいなどの交流の場を設け、参加者に大変好評でした。
- ・ 「経ヶ峰ハイキングコース案内と周辺マップ」の内容を見直し、新たに作成するなど、経ヶ峰ハイキングのPRに努めました。

##### 現状における課題

- ・ 参加者増加のための開催の周知方法や、物産展との同時開催など経ヶ峰の自然と周辺地域の良さをPRする方法を検討する必要があります。

##### 今後の取組

- ・ 今後においては、市民の健康づくりと交流を図りつつ、参加者の増加やイベントのPRについての効果的な方法を検討しながら事業を実施していきます。

## (2) 美里水源の森の整備

(美里総合支所、水道局)

### 前期基本計画における目標

- ・ 水源かん養林等を活かしたセラピーロードを設定し、癒しの場となる水源の森の整備を進めます。体力や体調などに合わせて選べる複数のセラピーロードを設け、歩道、階段、橋などを整備し、憩いの空間の創出を図ります。

### 平成22年度の取組実績

- ・ 癒しの場として親しまれる水源の森の在り方について、地元自治会長、地域住民の意見の聞き取りを行い、平成22年11月及び平成23年2月に合計250本の植樹を行いました。

### 現状における課題

- ・ 地域住民の意見等を参考に、水源の森整備計画を策定し事業を進めていく必要があります。

### 今後の取組

- ・ 今後は、企業とタイアップするなどの方法により植樹を進め、引き続き市民の憩いの場となる森林整備に取り組んでいきます。

### (3) 森と湖の環境整備

(芸濃総合支所ほか)

#### 前期基本計画における目標

- ・ 落合の郷、ふれあい公園、錫杖ヶ岳、錫杖湖畔キャンプ場などがある錫杖湖周辺を「森と湖の自然公園」と捉え、来訪者が手軽に自然を感じられるような環境整備に努め、地域の魅力を高め、集客を拡大することで地域の活性化を促進します。

#### 平成22年度の実績

- ・ 錫杖湖、落合の郷周辺において除草作業や施設改修等を行い、来訪者が手軽に自然を感じられるような環境整備を行いました。

#### 現状における課題

- ・ 魅力ある環境を作るため、継続的に必要な取組を行っていく必要があります。

#### 今後の取組

- ・ 来年度以降においても、親水公園河川の除草、錫杖ヶ岳の登山道に関する整備など、市民が親しみを感じることができる環境整備を行っていきます。

## ③中部エリア～“みのり”と“ぬくもり”の郷(さと)づくり～

### 1 温泉リフレッシュゾーンの魅力アップ

#### (1) 温泉利用客誘致への魅力アップ

(商工観光部、久居総合支所、一志総合支所、白山総合支所ほか)

#### 前期基本計画における目標

- ・ 榊原温泉、猪の倉温泉、とことめの里一志などのエリア内の温泉資源を有効に活用するとともに、周辺の環境整備や情報発信を強化し、温泉利用客の拡大を図ります。

#### 平成22年度の取組実績

- ・ 榊原温泉への主要アクセス道路沿いで、「花街道景観整備事業」、「湯の瀬フラワーガーデン整備事業」を行うことで、美しい農村景観づくりを推進し、来訪者の目を楽しませました。
- ・ とことめの里一志周辺において、「温泉と四季の花ふれあいの里事業」を実施し、休耕田、道路端等において美しい花を咲かせることにより、施設への集客の動機づけを図りました。
- ・ 温泉を活用した健康づくり及びふれあいづくり事業の一環として、平成22年10月24日に「ふれ愛フェスタ in 白山」を開催し、温泉施設とタイアップしたふれあい交流の場づくりを進めました。

#### 現状における課題

- ・ 「花街道景観整備事業」、「湯の瀬フラワーガーデン整備事業」、「温泉と四季の花ふれあいの里事業」については、年間を通じて花が楽しめるよう工夫しつつ、津市の人気スポットとして情報発信できるような事業展開が課題となります。
- ・ 榊原温泉においては、地元と温泉旅館との協議を進め、両者合意のもとで榊原温泉の情報発信拠点や環境の整備を行うことが課題となります。
- ・ 「ふれ愛フェスタ in 白山」については、白山地域周辺の情報発信イベントとして集客につながるよう、同時期に開催される社会福祉協議会の健康フェスタとも一体となって事業展開するなど、魅力のある事業計画を考える必要があります。

#### 今後の取組

- ・ 榊原地域で行われる景観事業や地域イベントについては、一体的にPRしつつ、将来的には榊原温泉郷内の景観整備にも取り組むなど、年間を通じた温泉リフレッシュゾーンの魅力アップを推進していきます。
- ・ 「ふれ愛フェスタ in 白山」については、事業内容について毎年実行委員会と協議を行いつつ、同時期に開催されるその他のイベントと目標設定を統一するなど、集客効果の向上をめざしイベントの実施方法を検討しながら開催していきます。

## (2) 温泉でつなぐふれあいルートの設定

(スポーツ文化振興部、白山総合支所ほか)

### 前期基本計画における目標

- ・ エリアを横断する初瀬街道と並行して走る鉄道の最寄り駅を発着に、猪の倉温泉や、とことめの里一志のほか、歴史、文化資源を組み入れたウォーキングルートを設定します。
- ・ 榊原温泉では、散策ルートのほか車利用を視野に入れた広域的なルートや環境学習をテーマにしたルート設定など、多彩な情報発信に努めます。
- ・ 温泉利用客誘致イベントと連携した複合的なルート活用に努めます。

### 平成22年度の取組実績

- ・ 平成20年度に作成した「初瀬街道周辺観て歩きマップ」について、10,000部を増刷し、市施設のほか市内外の観光施設等に備え付けることにより地域の情報発信を行いました。また、平成23年3月13日には、初瀬街道のPR及びイメージアップを図るため、「初瀬街道周辺ウォーキング」を実施し、65人の参加を得ました。
- ・ 平成22年11月21日に「ひさい榊原温泉マラソン大会」を実施し、ランナー852人のほか、運営側としてボランティアも多く参加し、マラソンを通じ市民の健康維持・増進と親睦を図るとともに、榊原温泉の振興と風力発電のまちを市内外にPRすることができました。

### 現状における課題

- ・ 「初瀬街道周辺観て歩きマップ」については、より地域の情報発信に寄与できるよう活用方法について検討する必要があります。また、「初瀬街道周辺ウォーキング」については、地域の魅力をさらにPRできるようコース設定や鉄道事業者とのタイアップについて検討する必要があります。
- ・ 「ひさい榊原温泉マラソン大会」については、参加者の増加を図るための募集強化と、榊原温泉への集客につなげるための仕組みづくりが課題となります。

### 今後の取組

- ・ 今後とも「初瀬街道周辺観て歩きマップ」を活用していくとともに、平成23年度の「ウォーキング大会」は、一志、白山両地域にまたがるコース設定を行うことにより、中部エリア内の一体感を醸成しつつ地域の魅力をPRする事業として実施していきます。
- ・ 「ひさい榊原温泉マラソン大会」については、市外からの参加者も多く、榊原温泉の振興とPRに寄与しており、今後は、参加者が観光客として現地に宿泊できる仕組みづくりや、中部エリアの他の事業との連携について検討しながら事業を継続していきます。

## 2 食のブランド化

### (1) 地産地消の促進

(農林水産部、久居総合支所、一志総合支所、白山総合支所ほか)

#### 前期基本計画における目標

- ・新鮮で安心な地元農産物の直売所の拡大を図り、消費者と生産者の信頼関係を構築するとともに、消費者に信頼される生産者グループを組織化して生産拡大や販売促進を図ります。

#### 平成22年度の取組実績

- ・子どもたちの農林水産業や地産地消に対する理解を深めることを目的として、「わくわく食農体験隊」を平成22年8月24日に実施し約30人の参加を得ました。また、料理を通じて地元農林水産業に関する子どもたちの理解が深まるよう、同年11月から12月に料理教室を実施しました。
- ・地元生産者と来訪者のふれあい・交流及び新鮮で安心な地元農産物の消費拡大を目的とした「榊原温泉ふれあい朝市」は、開催の周知や広報を強化しながら毎月2回程度の割合で実施しました。

#### 現状における課題

- ・「わくわく食農体験隊」また「料理教室」については、参加者の増加を図るため、食材の幅を広げるなどの工夫を行う必要があります。
- ・「榊原温泉ふれあい朝市」については、榊原温泉における観光客の誘客に寄与するため、さらなる生産拡大や販売方法の改善が必要となります。

#### 今後の取組

- ・「わくわく食農体験隊」及び「料理教室」については、子どもたちを中心に地産地消に対する理解を深めることができることから、より生産者と地域の消費者とのつながりが深められるよう、事業を工夫していきます。
- ・「榊原温泉ふれあい朝市」については、地元の農産物や加工品の販売を通じて、地域物産の情報発信とともに高齢者の生きがいづくりにも寄与していることから、今後も地域の活性化のため事業を継続していきます。

## (2) 特産品づくりの推進

(一志総合支所ほか)

### 前期基本計画における目標

- ・ 地元の食材を利用した料理の開発、広く消費者にPRする食のイベントの開催などを通じて、地域の農産物・特産品の浸透を図り、食のブランドの確立をめざします。

### 平成22年度の取組実績

- ・ 枕草子にゆかりがあることに因み、榊原地域で栽培している古代米の収穫時期に合わせ、榊原の自然や地元農産物のPRを目的として、平成22年11月27日に「榊原温泉 秋の収穫祭」を開催し、地元農産物の販売、かかしコンテスト、ふるまい鍋などを行いました。

### 現状における課題

- ・ 「榊原温泉 秋の収穫祭」については、一過性のイベントで終わることのないように、「かかしコンテスト」など息の長い地域の名物づくりを検討する必要があります。また、古代米に限定せず幅広く地域資源を活かした特産品づくりに取り組む必要があります。

### 今後の取組

- ・ 「榊原温泉 秋の収穫祭」については、平成22年度から地元高校生にも参加してもらうなど、地域住民の主導で年々内容改善が行われています。地域が一体となったまちおこしの風土づくりに寄与するイベントとして今後も実施していきます。

### 3 地域力の維持、再構築

#### (1) 地域の賑わい、ふれあい交流の場づくり

(白山総合支所、一志総合支所ほか)

##### 前期基本計画における目標

- ・ 空き家など現在使われていない住宅、公民館など既存の公共的施設を活用し、親近感のある気軽な拠りどころの設置を促し、人材確保、地域づくり活動への展開を図ります。

##### 平成22年度の取組実績

- ・ 地域の賑わい、ふれあい交流の場づくりとして、一志総合支所において平成22年7月24日に「一志夏まつり事業」を、平成22年11月14日に、「一志町ふれあいまつり」を開催しました。地域住民が主体となり特産品の販売やステージイベント等を行い、地産地消の推進及び地域住民の交流を図りました。

##### 現状における課題

- ・ 「一志夏まつり事業」、「一志町ふれあいまつり」については、積極的なPRを行うことにより来場者が増えるような取組を実施していくとともに、地域の活性化につなげる必要があります。

##### 今後の取組

- ・ 「一志夏まつり事業」、「一志町ふれあいまつり」については、地域伝統の継承、地域の活性化に必要な事業として今後とも継続していきます。

## (2) 隠れた資源の再利用

(一志総合支所、白山総合支所ほか)

### 前期基本計画における目標

- ・ 耕作放棄地、使われなくなった自然素材や生活の知恵、流通に乗りにくい手づくり品など隠れた資源の新たな活用策を見出し、地域力の再構築をめざします。

### 平成22年度の実績

- ・ 雲出川沿いの桜の名所として知られる「大仰の桜並木」及び「亀ヶ広の桜並木」について、除草、河川清掃、桜並木の維持管理などの保全事業を行い、地域の誇れる観光スポットにすべく環境整備に取り組みました。

### 現状における課題

- ・ 「大仰の桜並木」及び「亀ヶ広の桜並木」については、多くの観光客を招き入れるために、一志及び白山地域の観光名所としていかにPRしていくかが課題となります。

### 今後の取組

- ・ 桜並木については、桜の樹勢回復には長期的な取組が必要であることから、今後も継続して保全事業を展開していくとともに、地域の名所としての「雲出川の桜」のPRを並行して行っていきます。

## ④南部エリア～健康で暮らせる自然と歴史の地域づくり～

### 1 健康で元気な人づくり

#### (1) 連帯意識に根ざした心豊かなコミュニティの形成

(美杉総合支所、教委美杉事務所)

##### 前期基本計画における目標

- ・ 過疎化・高齢化が進行するなか、集落を維持する観点からも、高齢者の豊かな経験と知識の活用、地域団体やボランティアとの連携など、地域内外における人材の活力を積極的に誘導しながら、人と人とのつながりを大切にしたい心豊かな地域コミュニティの形成をめざします。

##### 平成22年度までの取組実績

- ・ 美杉地域において、平成20年度から住民が相互にコミュニケーションを取り、自ら考え、行動する機運づくりのための事業を実施しています。平成22年度は集落機能再生きっかけづくり推進事業を太郎生・下之川地区で実施、地域活性化協議会を八知・八幡・伊勢地地区において設立し、地域活性化協議会事業を竹原・多気地区とあわせて実施しました。
- ・ 美杉地域において、地域の一体感を醸成するため、三多気桜まつり、君ヶ野ダム公園桜まつり、みすぎ夏まつり、みすぎ秋まつりを実施しました。

##### 現状における課題

- ・ 地域活性化協議会の活動をさらに盛り上げるため、活動の拠点となる施設の設置に関する協力及び支援が必要となります。また、各協議会のリーダーやキーマンの育成が課題となります。

##### 今後の取組

- ・ 集落再生きっかけづくり推進事業及び地域活性化協議会の設置については、平成22年度は予定どおり達成できたため、来年度も継続して協議会未設置の地域における同事業の推進及び設置済み地域における地域活性化協議会事業を実施していきます。
- ・ 美杉地域内の地域づくり協議会が連携し、一体的な自立したまちづくりを展開するため、各協議会等の参加による連絡協議会を設置し、集落の維持と活性化に努めます。
- ・ 地域づくりリーダーやキーマンを育成するための研修会を実施し、協議会活動の活発な実践を図ります。

## (2) 暮らしの安心づくり

(健康福祉部、美杉総合支所ほか)

### 前期基本計画における目標

- ・ 健康増進施設等の整備と併せた老朽化が進む美杉庁舎の建替えをはじめ、森林セラピー事業との連携を図りながら、竹原診療所の有効活用を促進するとともに、三重県立一志病院など医療機関と連携し、住民の健康づくりを支援します。またコミュニティバスの円滑な運行をはじめ、過疎地域における利便性の向上を図るための輸送サービスの導入による、高齢者の外出支援の促進等を検討するなど暮らしの安心づくりを進めます。

### 平成22年度の取組実績

- ・ 健康増進イベントを元気づくり事業とタイアップした森林セラピー基地グランドオープン1周年記念及び津市合併5周年記念イベントと合併し開催しました。
- ・ 一次医療制度の確立のため、県立一志病院及び三重短期大学との協議及び連携の検討を進めました。
- ・ 公共交通システム整備の一環として、過疎及び福祉有償輸送について引き続き検討を進めました。
- ・ 総合文化センター整備については、市民による委員会を設置し、基本構想に係る意見書を提出していただきました。

### 現状における課題

- ・ 森林セラピー基地を利用した健康づくりイベントの実施と総合文化センターの整備の推進については、一定の成果が上げられましたが、一次医療制度や地域の実情に合った末端公共交通システムの調査研究及び健康相談事業については、来年度へ継続して実施して行く必要があります。

### 今後の取組

- ・ 暮らしの安心づくりの実現のため、一次医療制度の確立のための調査研究、地域に合った交通体系整備のための調査研究、公共施設へのAEDの配置を進めていきます。

## 2 自然の恵みの価値創造

### (1) 森林を活かしたヘルスツーリズムの推進

(健康福祉部、商工観光部、美杉総合支所ほか)

#### 前期基本計画における目標

- ・豊かな森林の恵みを活かし、森林セラピー基地（セラピーロードと宿泊施設等）を活用したヘルスツーリズムを積極的に展開し、健康に配慮したまち歩きシステムによる新しい観光商品の確立をめざすと同時に、地域における看護実習の実施など、健康をテーマとした大学コミッション※（地域の中での大学の調査研究活動）の推進などにより、内外から訪れる人々の心の癒しと健康づくりをめざします。

#### 平成22年度の実績

- ・平成21年度に設置した森林セラピー基地在り方懇話会を、地域主体による事業運営ができるよう、平成22年9月に森林セラピー基地運営協議会へ移行しました。
- ・森林セラピーロードについては案内看板や総合案内所へのPRモニターの設置等、ロード施設の整備を実施しました。
- ・森林セラピーロードへの集客の増大を図るため、県内はもとより東京、大阪及び奈良（平城遷都1300年祭関係イベント）においてPR等啓発事業を実施しました。

#### 現状における課題

- ・運営協議会に対しスムーズに事業の運営を移行させ、地域住民の意向を十分に踏まえたセラピーロードの運営方法を模索して行くとともに、セラピーロードの拠点となる施設の活用を促進していく必要があります。
- ・セラピーロードのさらなる集客の増大及び活用促進のため、企業や医療・福祉施設へのPR事業の展開が必要となります

#### 今後の取組

- ・森林セラピーロードについては、住民主体の運営協議会の設置により、今後は、同協議会との協働による地域づくり事業として、一層の定着と発展をめざしながら、セラピー基地運営の展開、セラピーロード及び拠点施設の整備、PR事業の展開を実施していきます。

## (2) 自然を活用した産業の活性化

(農林水産部、商工観光部、環境部、美杉総合支所)

### 前期基本計画における目標

- ・ バイオマス等を活用した地域循環型産業の拠点形成をめざし、バイオスタウン構想の検討を行うとともに、ICTを活用したテレワーク（地方などオフィス以外の場所で働く労働形態）事業の具体化に向けた検討、特産品の生産・販売拡大を図るためのブランド化とこれを活用した集客交流、森林・河川・農地を利用した自然体験やオーナー制度の導入など、新たな産業の創出を図ります。

### 平成22年度の取組実績

- ・ 特産品について、新食材の育成に係る取組としてオオイチョウダケ（通称：スギタケ）の自然栽培に係る研究を行いました。

### 現状における課題

- ・ 各種条件に合った菌床開発のための研究を実施しているが、平成22年度においても予定数量の収穫が確保できておらず、早急に研究成果を出すことが必要となります。

### 今後の取組

- ・ オオイチョウダケの安定した栽培と販路確保のための調査を実施し、引き続き、新たな事業に活用でき得る特産品づくりへの取組を進めます。また、新たな地域における特産品の開発に係る調査・研究の支援についても検討していきます。

### (3) 豊かな自然環境の中での居住

(美杉総合支所ほか)

#### 前期基本計画における目標

- ・ 空き地や遊休地を活用して都市住民が居住できる二地域居住を促進し、これを定住に結びつけていくため、田舎暮らし体験塾の開催や空き家情報バンクの整備などを推進し、豊かな自然の恵みを求めて居住できる環境整備を図ります。

#### 平成22年度の取組実績

- ・ 空き家を改修し、交流体験施設として地域活性化の拠点づくりを行うため、空き家改修活用事業を実施しました。
- ・ 津市空き家情報バンク制度の安定運営を図るため、PR事業としてパンフレットを活用するとともに、田舎暮らしアドバイザーを設置し、東京及び大阪においてバンク活用促進のためのPRを実施しました。また、空き家見学会を2回実施しました。
- ・ 本年度も「田舎暮らし体験塾」を実施し、市民農園における宿泊体験をはじめ、様々な田舎暮らしを体験してもらい、美杉地域における定住及び二地域居住の推進を図りました。

#### 現状における課題

- ・ 空き家バンクへの登録物件拡大に係る具体的な推進PR方法を検討する必要があります。また、バンク活用による移住・交流の促進を図るため、新たなアイデアを検討する必要があります。
- ・ 田舎暮らしアドバイザーの新たな活用による効果増大を図る必要があります。

#### 今後の取組

- ・ 美杉地域における二地域間居住又は定住を推進するため、今後とも空き家の活用促進と空き家バンク事業のPR、バンク活用促進アイデアの検討を図り、事業を推進していきます。
- ・ 定住促進のための田舎暮らしアドバイザーによる各種研修会を開催していきます。

### 3 歴史と文化の拠点の整備

#### (1) 歴史と文化の拠点整備

(教育委員会、教委美杉事務所)

##### 前期基本計画における目標

- ・ 調査、研究の進む多気北畠氏城館跡を中心として、ふるさと資料館、道の駅周辺等との歴史、文化のネットワークづくりとともに、地域の伝統文化を活かしたイベントや講座を開催するなど、歴史と文化の拠点整備を進めます。

##### 平成22年度の実績

- ・ 史跡である多気北畠氏城館跡について、平成22年5月に「多気北畠氏遺跡保存活用協議会」を設置し、遺跡の周辺整備と適切な保存管理を実施していくための検討を行いました。

##### 現状における課題

- ・ 多気北畠氏城館跡については、森林セラピー基地事業や、伊勢本街道を活かした地域づくり事業などと合わせた遺跡等の活用による交流拠点の確立が課題となります。

##### 今後の取組

- ・ 今後とも多気北畠氏城館跡についての整備と保存管理を実施するとともに、伝統文化継承事業や地域のまつり事業に対し補助を行うことにより、歴史と文化が息づく地域づくりを進めていきます。

## (2) 住民との協働による歴史・文化の保全・活用

(教育委員会、美杉総合支所、教委美杉事務所ほか)

### 前期基本計画における目標

- ・ 「歴史の道百選」にも選ばれた伊勢本街道の道標、家並みの保全・活用、有形・無形文化財の保護と史跡の管理、歴史・文化の伝承活動などを進めます。関係部局や三重県とも連携し、地域住民が主体となった歴史・文化が息づく地域づくりを進めます。

### 平成22年度の実績

- ・ 伊勢本街道について積極的にPRするため、「歴史街道ウォーク」等のイベントへ参加しPRを実施しました。
- ・ 伊勢本街道に関する案内ガイドを育成するため、協議会による育成方法の検討及びガイドマニュアルの作成を行いました。
- ・ 美杉地域の住民を対象にした伊勢本街道のウォークイベントを開催しました。

### 現状における課題

- ・ 伊勢本街道及び周辺地域について案内するガイドを育成する方法の検討や人材の確保が必要となります。また、集客に向けて沿道地域の特産物や土産物の開発が課題となります。

### 今後の取組

- ・ 地域の協議会と行政が協働により着実に事業を進めており、今後は集客向上に向け、新たな取組を協議会と連携して進めていくことにより、集客の増加と交流の推進を図っていきます。

